



杏林大学大学院国際協力研究科

KYORIN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF INTERNATIONAL COOPERATION STUDIES

2020-21
GUIDE BOOK

Major in International Development (Master's Program)

国際開発専攻 (修士)

Major in International Medical Cooperation (Master's Program)

国際医療協力専攻 (修士)

Major in Global Communication (Master's Program)

グローバル・コミュニケーション専攻 (修士)

Major in Development Studies (Doctoral program)

開発問題専攻 (博士)



杏林大学の教育資産を最大限に生かし専門性



CONTENTS

研究科長メッセージ	3
本研究科の構成 取得できる学位・資格	4
学びやすい制度	4
アドミッションポリシー	5
国際開発専攻 博士前期（修士）課程	6
国際医療協力専攻 博士前期（修士）課程	10
グローバル・コミュニケーション専攻 博士前期（修士）課程	14
修了生からのメッセージ	18
開発問題専攻 博士後期（博士）課程	20
データベース紹介	23

※この大学院案内は2020年3月現在の情報に基づいて作成しています。

と総合性を合わせ持つ教育プログラムを提供

杏林大学国際協力研究科は1993年4月の開設以来、数多くの人材を世に送り出してきました。研究科開設当時は博士前期課程の国際開発と国際文化交流の2専攻からスタートし、1995年には博士後期課程の開発問題専攻を開設、さらに2004年には博士前期課程に国際医療協力専攻が加わり、時代のニーズに合わせる形で着実に進化を遂げてきました。

国際協力研究科の最大の特長は、杏林大学ならではの強みを最大限に生かしたカリキュラム編成にあると言えるでしょう。国際協力というものの研究には、行政、経済、医療、保健衛生、人権、教育、文化交流、技術など、実に様々な側面からのアプローチが求められます。その点、医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部といった幅広い領域の学部を持つ杏林大学の大学院である国際協力研究科は、各分野の専門家で教育のプロフェッショナルでもある各学部の教授から直接指導を受けることができることに加え、それぞれの学部の専門性の高い研究内容や教育資産を

十分に活用することができ、大変恵まれた環境にあると言えます。こうした専門性と総合性を合わせ持つ国際協力研究科の教育プログラムは、多くの学生から高い評価を得ています。

国際協力を研究する学生には、めまぐるしく動く世界情勢、その変化にともない発生する様々な課題、開発途上国が置かれている現実を多面的に把握するとともに、それぞれの問題を長期的視野で分析・考察していく姿勢が必要となります。また、研究指導する側としても、各学生がこれまで培ってきた学問的基礎のレベル、海外経験、実務経験の有無など、それぞれのバックグラウンドに対応した多様な教育プログラムが求められています。

杏林大学国際協力研究科では、研究の主体である学生と指導する教員が高い意識を共有しながら、時代のニーズに対応した研究・教育活動を追求していくことで、今後ともさらなる発展をめざしていきます。



国際協力研究科長

坂本 ロビン 教授

専門分野：異文化コミュニケーション・国際教育
ミネソタ大学大学院（アメリカ）教育学部博士

求められるグローバル人材を社会へ

私は仕事のプロとして日本に来て35年になります。その間、働き方が国際化するにつれて大きな進歩を遂げるのを見てきました。しかし、まだ多くの課題もあります。そこで杏林大学国際協力研究科では、昨今の社会のニーズに応えるため、見識を深め、国際社会に貢献したいと考えている方に、博士前期課程と博士後期課程の両方のプログラムを提供しています。

本研究科は、杏林大学の2つの学部「総合政策学部」と「外国語学部」を組み合わせ、多面的な教育を提供するという点でユニークです。博士前期課程のプログラムでは3つの専攻の中から選択することができます。国際的な観点から政治、経済、ビジネスと法律・税務を学ぶ機会を提供する国際開発専攻。国際保健学研究、国際医療研究、国際福祉研究を専門とし、杏林大学の医療・健康科学カリキュラムに基づいて構築された国際医療協力専攻。そして英語、日本語、もしくは最先端の通訳翻訳設備が整った教室で日中・中日の通訳・翻訳の研究を行うことができるグローバル・コミュニケーション専攻。これら3専攻に加え、学生が専門知識と学識をさらに高め国際協力に寄与できる人材の養成を行う博士後期課程プログラムも提供しています。本研究科で学ぶことによってグローバル人材としてリーダーシップを発揮し、世界に貢献してほしいと願っています。

本研究科の 構 成



学びやすい 制 度

昼夜・土曜開講

社会人に配慮して、夜間および土曜日の開講科目を設けています。

セメスター制度

海外の就学期を考慮して、秋学期入学も可能なセメスター制度をとっています。

他専攻の授業科目の履修が可能

自分の所属している専攻以外の他の専攻の授業科目を必要に応じて選択履修することが可能です。

基礎科目の設定

日本語を母語としない1年生を対象にアカデミック・ジャパニーズアカデミック・ライティングを開講し、研究活動に必要な日本語の技能を高めます。また全1年生を対象として調査・研究に必要な統計学も学んでいただきます。

奨学金制度

本学独自の奨学金制度(給付)があり、また日本学生支援機構等の奨学金(貸与)も利用可能です。(詳しくはホームページをご覧ください。)

アドミッション ポリシー

〔博士前期課程〕

国際協力研究科博士前期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

(1-1) 国際協力に対する高い関心

国際社会において発生する様々な課題に関心を持ち、課題解決に向けて多面的、学際的に取り組む意志を持った人

(1-2) 研究、問題解決への意欲

研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的・政策的に分析して解明する能力・技術を習得し、研究成果を実践活動に生かして国際協力に関する問題を解決したいという意欲がある人

(1-3) 高度専門職業人への意欲

国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

(2-1) 国際協力の実践に必要な論理を修得する知識と能力を有している(知識)。

(2-2) 課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得する意欲と能力を備えている(態度・思考力・判断力)。

(2-3) 高度専門職業人として必要な諸技能を修得する意欲と能力を備えている(態度・技能)。

(2-4) 自立して研究課題を設定・遂行し、その成果を生かす技能を修得する意欲と能力を備えている(研究遂行能力)。

(3) 入学者選抜の基本方針

本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

(3-1) 一般選抜

外国語試験、専門科目、小論文、面接(口述試験)等の内容から、学習成果を総合して評価する。

(3-2) 留学生特別選抜

外国語試験、専門科目、小論文、面接(口述試験)等の内容から、学習成果を総合して評価する。

(3-3) 社会人特別選抜

小論文および面接(口述試験)、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

(3-4) 国際協力特別選抜

面接および青年海外協力隊などの国際貢献活動を行ってきた経験と研究計画との関連性についてまとめた概要書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

〔博士後期課程〕

国際協力研究科開発問題専攻は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。

(1) 求める学生像、資質

(1-1) 国際社会に対する高い関心

国際社会において発生する様々な課題を、多くの側面から学際的に取り組む意志を持った人

(1-2) 実際の諸問題解決への意欲

開発協力にともなう諸問題に関して、言語や文化、社会に生起する具体的、実際の諸問題について究明する意欲を持つ人

(1-3) 高度専門職業人への意欲

国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人

(1-4) 問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる人

(2) 求める学習成果

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。

(2-1) 高度な専門的知見を備え、独創的構想を提起できる。(専門的知識)

(2-2) 入学後の修学に必要な基礎学力としての高度な外国語能力を身につけている。具体的には、以下に述べる能力を身につけている。(専門的技能)

(2-3) 開発にともなって生じる社会構造および社会組織のさまざまな変容について、その要因、過程、結果を地域社会固有の言語、生活様式、文化などの諸側面からとらえることができる。(問題解決能力)

(2-4) 研究計画を立案・遂行し、論文を作成する基礎的能力を養うことができる。(研究遂行能力)

(3) 入学者選抜の基本方針

本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。

(3-1) 一般選抜

外国語試験(英語)、小論文、口述試験、研究計画書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

(3-2) 留学生特別選抜

外国語試験(英語)、小論文、口述試験、研究計画書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

(3-3) 社会人特別選抜

小論文および面接、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

博士前期（修士）課程

国際開発専攻

Major in International Development (Master's program)

本専攻の 理念・目的

国際開発専攻は、世界諸地域の経済社会の発展に資するための開発及び国際協力のあるべき方法・施策を社会科学諸分野にわたり、理論的・実証的に究明するとともに、わが国の政治・経済・経営及び法律税務の各専門領域について考究し、これらを通じて必要な専門知識の修得はもとより関連分野にも通暁し、実務にも対応できる人材の養成を目的としています。

本専攻の 教育方針と 概要

国際開発専攻は、本学総合政策学部の教授陣によって支えられています。したがって、本専攻は、院生が政治学、経済学、経営学、会計学、法律学、社会学といった広範な社会科学分野の研究を行えるという特色をもっています。本専攻の教育方針は、発展途上国を中心とした開発や国際協力のあるべき方法・施策を社会科学諸分野にわたり、理論的かつ実証的に究明し、分野横断的な専門知識の修得、そして関連分野に通暁し、実務にも十分対応できる人材を養成することにあります。また、その人材育成のために、ある分野の研究に特化するだけではなく、分野横断的に幅広い分析・総合力をもった人材を育成できる点に、本専攻の強みがあります。

本専攻は、4つの研究分野をもち、それらは、社会科学分野でのほぼすべての職業的ニーズに対応するものであります。また本専攻では、税理士試験のうち、税法に関する科目免除の申請が可能です。

授業科目概要（抜粋）

国際政治特論	INTERNATIONAL POLITICS	渡辺 剛	比較政治学特論	COMPARATIVE POLITICS	木暮 健太郎
現代国際政治理論に関する最新の英語文献を輪読する。受講者は輪番で報告を担当する。文献の選択は、科目担当者が数冊を提示し、受講者との協議の上で決定する。勿論、受講者からの積極的な提案は歓迎する。尚、報告にあたっては、単なる要約のレジュメ作成だけでなく、関連文献や資料に目を通した上で、内容の検討と批評が必須である。また、報告担当以外の受講者も文献を精読し、議論に参加することが求められる。			ガバナンス論を中心として、現代政治学に関する近年の理論的な動向を理解する。とりわけ、国家の空洞化 (hollowing out of the state) を前提としてガバナンスを捉えるローズ (R. A. Rhodes) らによる社会中心アプローチ、あるいはピーレ (Jon Pierr) やピーターズ (B. Guy Peters) らによる国家中心アプローチなど、ガバナンス論における国家の位置づけについて検討したい。		
国際政治経済特論	INTERNATIONAL POLITICAL ECONOMY	三浦 秀之	比較行政学特論	COMPARATIVE PUBLIC ADMINISTRATION	進邦 徹夫
As you begin your study of international relations? often referred to simply as 'IR'? it is worth asking some basic questions. What do students of IR study? What distinguishes international relations from the study of history, law, economics or political science? When did it emerge as an academic discipline, with its own university departments and publications? How has international relations changed over time? What does IR contribute to the sum of human knowledge? The purpose of this course is to help you answer these fundamental questions. It will do so by familiarising you with key international relations issues and introducing you to some of the specialised IR topics that you may choose to study in the coming years. We will look in some detail at both the real-world problems that IR addresses, and some of the essential theories it uses to understand the international system. You do not need any specialised knowledge of international affairs to start this course. On the other hand, you do need to have a genuine interest in world events and a willingness to expand your knowledge of global history and geography.			市民参加には、「市民ニーズの把握」、「市民意識の向上」、「行政監視」といった意義づけがなされていますが、これら機能を期待された組織として、すでに議会が用意されているはず。議会が機能していないため、市民参加が必要であるという論理は、正しいようにも思えますが、機能しない議会を機能させることを検討することが先決で、市民参加を正当化することにはなりません。そして何より市民参加は、選挙を通じて選出される首長や議会の議員と異なり、民主的な手続きを踏んだメンバーで構成されているといえるのでしょうか。本講義では、市民参加の正当性について考察したいと考えています。これまでの市民社会論の整理、「新しい公共」を含む公共概念の再検討など、市民参加を取り巻く環境変化についても視野に入れながら市民参加について考察していきます。		

研究分野

基礎科目(1年次の履修を推奨)

- 統計学
- アカデミック・ジャパニーズ
- アカデミック・ライティング

国際政治研究

- 国際政治特論
- 国際政治経済特論
- 比較政治学特論
- 比較行政学特論
- 現代アジア特論
- 現代アメリカ特論
- アジア交流史特論
- 日本政治特論
- 国際法特論
- 地域圏特論

国際経済研究

- 日本経済特論
- 国際貿易特論
- 国際金融特論
- アメリカ経済特論
- ヨーロッパ経済特論

国際ビジネス研究

- 経営特論
- 国際経営特論
- 会計特論
- 産業システム特論
- マーケティング特論
- 会計制度特論
- 国際会計特論

法律税務研究

- 憲法特論
- 企業法特論
- 家族法特論
- 財産法特論
- 刑事法特論
- 租税法特殊研究
- 租税法特論
- 比較法特論

論文指導

- 論文指導

現代アジア特論	CONTEMPORARY ASIAN STUDIES	劉 迪	アジア交流史特論	HISTORY OF ASIAN EXCHANGES	松田 和晃
主に1949年以降の中国政治思想、政治制度及び対外政策を扱う。比較政治学の視点から中国の国家建設過程における中央と地方の関係、ナショナリズム、権威主義体制、民主化、グローバル化などの問題をめぐって検討する。上記内容に関係する文献を輪読し、それについて発表を行う。			古代における日本とその周辺諸国との接触にかかわる史料を読みながら、古代国家形成過程の諸相を考える。今期は、統一国家形成期を中心にとりあげる。履修者の能力・関心度等により、授業計画の中のタイトルや取り扱う史料を多少変更することがある。		
現代アメリカ特論	MODERN AMERICAN POLITICS	島村 直幸	日本政治特論	JAPANESE POLITICS	半田 英俊
21世紀はじめの国際秩序は、中国やインド、ロシア、ブラジルなど新興国の台頭を受け、アメリカ中心の単極構造から「多極化」ないし「無極化」の趨勢が強まると予測されている。アメリカは、サブプライム金融危機とリーマン・ショックの後、21世紀型の100年に一度の国際金融危機に直面してきた。またアメリカは、中東地域のイランとアフガニスタンから撤退し、特に中国の脅威の台頭を背景にして、「アジア旋回」ないし「再均衡」を推し進めてきた。しかし、中東地域は、シリアの内戦など、「イスラーム国家(IS)」の脅威の衰退後も混迷を深めている。アメリカ政治外交の現状をいかに分析し、将来をいかに展望できるのか。講義では、まずアメリカ外交の伝統を取り上げ、次いで第二次世界大戦後の冷戦期のアメリカ外交史を考察する。イギリスの歴史家E.H.カーが指摘したように、複雑な現在の問題をより深く理解するためには、過去の歴史を学び、過去と現在とを“対話”させる必要がある。アメリカ外交の歴史を学ぶ場合も、例外ではない。また大統領とアメリカ議会、二大政党制など、アメリカ政治の仕組みについて議論したい。アメリカ政治は、アメリカ合衆国憲法によって、「権力の分立」と「抑制と均衡」の原則が厳格に適用されている。民主主義国家のアメリカ外交は、内政の動きと切り離して議論することができない。なぜなら、大統領とアメリカ議会の間では、内政だけでなく、外交でも「抑制と均衡」が機能することが期待されているからである。			現代の日本政治の源流は近代まで遡ることができる。今の日本政府は明治政府の後継政府であり、現在、運用されている内閣制度の初代内閣総理大臣は伊藤博文となっている。どのような経過をたどって日本の政治は作られていったのであろうか。本授業においては、近現代の書籍を読み込んで、毎回発表をおこないながら、日本政治について理解を深めていくことを目標とする。		
			国際法特論	INTERNATIONAL LAW	川村 真理
			本講義では、国際法の機能、国際社会の主たる構成員である領域主権国家の成立、国家機関、国家の権利・義務・責任など国際法の基本について理解を深める。また、最新の事例をとりあげて、現代社会が直面する重要課題について、国際法に基づき自ら考え、その課題を明らかにする能力を養う。授業は演習形式で、毎回報告者がレジュメを作成して報告し重要な論点を整理して議論を行う。		
			国際金融特論	INTERNATIONAL MONETARY ECONOMICS	西 孝
			国際金融論・国際マクロ経済学の基礎理論を、教科書の輪読を通じて学ぶ。必要に応じて解説を加えながら、学生による報告およびディスカッション形式で授業を進める。		
日本経済特論	JAPANESE ECONOMY	大川 昌利	国際貿易特論	INTERNATIONAL TRADE	小野田 欣也
日本経済の表面的なパフォーマンスに拘泥することなく、その構造的な理解に到達するためのハイレベルの講義である。リーマン・ショック後の先進国経済に少なくとも表面上共通の現象として見られた経済成長鈍化の真の原因を特定するためには、日米欧それぞれの経済圏ごとにその理由を探る必要があるが、本講義では日本の経済成長率が低下した理由を高度成長期以降の推移を対象に経済成長理論に照らして把握するとともに、その結果を今後の展望につなげてみたい。教科書および講義の進行に伴って指定する参考文献を輪読する方式で進める。			貿易摩擦、貿易構造変化、世界貿易体制の変容など、国際貿易問題の理解のためには貿易理論の知識が不可欠である。理論的背景の無い政策的見解は雑談の域にすらしらない。本授業では貿易理論の習得を目的として、内外文献の輪読と検討、討議をおこなう。		
アメリカ経済特論	AMERICAN ECONOMY	松井 孝太	ヨーロッパ経済特論	EUROPEAN ECONOMY	西 孝
アメリカ合衆国の経済発展を、歴史・比較・学際的観点から学習する。欧州から遠く離れた僻地であった「新世界」のアメリカがいかに世界最大の経済大国となるに至ったのか。経済成長は人々の生活をどのように変えてきたのか。その過程で政府はどのような役割を果たしたのか。教科書の輪読(担当者による報告とディスカッション)と補足的講義を中心に進める。			本講義では、欧州債務・金融危機の問題を取り上げ、通貨統合を巡る諸問題について、主に理論的観点からこれを検討する。授業の進め方は、受講生による報告(テキストの要約)と教員のコメント・補足説明、全員による質疑応答・討論といった形式をとる。		
経営特論	BUSINESS MANAGEMENT	田中 信弘	会計特論	FINANCIAL ACCOUNTING	原田 奈々子
国際開発問題に対して、経営学からのアプローチを志向する。巨大企業の影響力は現代社会において増大し、民主主義を弱体化させるひとつの要因となっているともいわれる。また一方で、行政サービスの効率性を改善していく必要性が唱えられ、そこでは民間企業のマネジメント手法が適用される動きもある。社会のなかで大きなインパクトをもつようになった企業のマネジメントを、経営管理論、経営戦略論、国際経営論、比較経営論などの議論をもとにその理解を深めていく。授業は、①テキストの事前学習、②レジュメによる発表、③討議の手順で進められる。			本講義では財務会計理論の研究を行う。昨今企業会計の世界においては、新手法の経済取引を合理的に処理するため、あるいは国際会計基準への収斂といったさまざまな課題が山積し、新しい会計基準の設定や既存の基準の改定作業が急ピッチで進められている。しかし現行の会計制度はどのようなものになっているのかというタイムリーな問題意識を持つことは大切ではあるが、他方において企業会計が全体として矛盾をできるだけ排除した合理的な計算の体系を維持するためには、その前提として首尾一貫した会計理論に裏打ちされたものであることが必要である。本講義では、現行会計を矛盾なく説明するための論理をいかに構築するかに着目し、基礎と考えられてきた諸論点を検討し直し、現行会計理論の問題点を考えていく。		

国際経営特論		INTERNATIONAL BUSINESS MANAGEMENT	糟谷 崇	産業システム特論		INDUSTRY SYSTEMS	長谷部 弘道
この授業では、先端産業における研究や技術開発に関する理論を体系的に学習する。まずMOT (Management of Technology) について学び、イノベーションや価値創造の背景やその論理について整理する。さらに製品開発と市場との関係を技術の構造をふまえて理解し、プラットフォーム・モジュール化といった製品アーキテクチャについて扱う。				この授業では、産業システム（研究や技術開発）に関する理論を体系的に学習する。まずMOT (Management of Technology) について学び、イノベーションや価値創造の背景やその論理について整理する。さらに製品開発と市場との関係を技術の構造をふまえて理解し、プラットフォーム・モジュール化といった製品アーキテクチャについて扱う。			
マーケティング特論		MARKETING	加藤 拓	国際会計特論		INTERNATIONAL ACCOUNTING	内藤 高雄
基礎的なテキストを通じて現代マーケティング論と消費者行動論の基礎概念や分析視角を概観すると同時に、事例分析・討議を行い、ある商品がなぜ市場に受け入れられるのか（あるいは受け入れられないのか）をマーケティングの分析枠組を用いて論理的に説明する力を養う。対象は主に国際展開する製造業（主に消費財メーカー）とする。受講者にはテキストの内容と事例分析に関するレジュメの作成、プレゼンテーションを課します。				現在の各国の会計制度は、IFRS（国際財務報告基準）と言われる国際的な会計基準に向かって収斂しつつある。しかしながら、会計は、一方で人間の組織的行動としての文化という一面を備えており、各国はそれぞれ固有の特質を内に秘めた展開をはかっている。そこで、まず特論では、IFRSの諸基準の内容を全体的に検討する方向で講義を進めたいと思う。具体的な講義の内容については、参加学生の希望も取り入れて、IFRSの諸基準の中から、最終決定をしたいと考えている。			
企業法特論		BUSINESS LAW	伊藤 敦司	家族法特論		FAMILY LAW	北田 真理
わが国会社法は、商法2編として明治32年（1899年）に成立した。当時の会社法はその基礎をドイツ法に求めるものであったが、戦後の昭和25年（1950年）、アメリカ法の影響を受け大改正された。その後、企業活動の国際化、その下での競争激化等を背景に幾多の改正を経て、平成17年（2005年）、商法から独立した「会社法」が成立した。同法は、企業をとりまく環境変化に対応すべく、平成26年（2014年）に大改正がなされ、さらに今国会（2019年12月時点）において改正法が成立する予定である。このような改正の背景をふまえながら、会社法の現代的意義や課題を明らかにすることを目的とした。講義のほか、研究報告とディスカッションを通じ、理解を深めていただく予定である。				この講義では、世界各国の親権法の比較検討を行う。一例として、我が国は、離婚後単独親権制度を採用するが、諸外国では離婚後共同親権制度を採用する国が多い。また、我が国の親権（parental authority）と英国の親責任（parental responsibility）とは発想が大きく異なっている。日本法との比較として、コモン・ローとしてはイギリス法に、大陸法としてはフランス法に焦点を当てて学習する。このほか、北欧法、アジア法にも触れつつ、各国の文化的背景を確認しながら、我が国の親権法の改正について検討する。			
財産法特論		PROPERTY LAW	藤原 究	比較法特論		COMPARATIVE LAW	北田 真理
私有財産制といった市民社会の基礎となる民法・財産法を対象として学習を進める。この講義では、法人、物権、契約、不法行為などの重要な民法上の制度について、受講者をもつ興味や研究内容に応じて、その知識の深化・研究を行うことがこの時間の目的である。財産法の学習においては、民法に関する知識は必須であり、この点について取り扱う時間的な余裕はないので、各人が民法・法律に関する基礎知識を有していることを前提とする。進行は参加者による判例報告を中心とするゼミナール形式にて行う。				この講義では、世界各国の親権法の比較検討を行う。一例として、我が国は、離婚後単独親権制度を採用するが、諸外国では離婚後共同親権制度を採用する国が多い。また、我が国の親権（parental authority）と英国の親責任（parental responsibility）とは発想が大きく異なっている。日本法との比較として、コモン・ローとしてはイギリス法に、大陸法としてはフランス法に焦点を当てて学習する。このほか、北欧法、アジア法にも触れつつ、各国の文化的背景を確認しながら、我が国の親権法の改正について検討する。			
憲法特論		CONSTITUTIONAL LAW	大西 健司	刑事法特論		CRIMINAL LAW	大山 徹
この授業では、Stephen Jonas, Press Access to the Juvenile Courtroom; Juvenile Anonymity and the First Amendment, 17 Colum. J.L. & Soc. Probs. 287（1981）の論議を通じて、アメリカにおける推知報道問題を比較憲法的な視点から検討する。				刑事法概論Ⅰでは、刑事法の全体像を俯瞰しました。この刑事法概論Ⅱでは、刑法を概観します。犯罪論体系を学ぶ「刑法総論」、各種犯罪類型を学ぶ「刑法各論」について、順次考察する「刑法入門」講座です。講義に際しては、毎回レジュメと該当条文を配布します。理解度を確かめるために小テストを実施します。			
租税法特殊研究		TAX LAW THEORY AND PRACTICE	知原 信良				
租税法の入門として基本的な構造と考え方について学ぶ。今日の租税は、その国の歴史、社会環境とも深い関わりを持つとともに、グローバリゼーションの中で制約を受け影響を及ぼしている。他方でこれまで先人たちが歴史の中で積み重ねてきた失敗や知恵の結集でもある。本講義はこうした問題意識のもとで、租税に関わる基本的な重要事項を検討してゆく。また租税法規の解釈論にとどまらず、制度の趣旨を理解するために国の立法政策との関係についても考察していく。							

修士論文題目（過去3年間）

- 中央巡視制度の効用 — 改革開放後央地関係をを中心に —
- FTAAPにおけるシルクロード経済ベルトの役割
- 電子政府における現状考察及び日中比較
 - オープンデータ取組の視角から —
- 水問題への企業対応の現状と課題
- 中国人民解放軍に対する、中国共産党の政治的な意図を含んだ誘導の存在有無について
- CSVによる企業競争の強化
- 日本アニメ産業の再生
 - 若手アニメーターの就労環境改善と人材育成 —
- 消費税における中小事業者に対する優遇措置の特例
- 成長する中国小売業 — 中国におけるセブンイレブンの発展
- 学生村官政策 — 中国共産党の正統性の再構築
- 中国における相続税のあり方について
- 産業クラスター論の再考
- 電中国におけるキャリア教育のあり方について
- 中国温州の「家庭教会」の構造及びその管理の特徴
- 患者の自己決定権
- グローバル化時代における移民と宗教
 - 東京のキリスト教会の中国語信者グループに関する考察
- 現代中国宗族制度の考察
 - 中国山東省李長宮村を例として
- グローバル市場における携帯電話端末メーカーの国際比較
 - 日中を中心として —
- 日本企業における外国人材の長期的定着についての研究
- 地域自治の視点から見た白川郷萩町の保護
- 中国都市計画策定における住民参加に関する研究
 - 七台河市採炭による陥没区域居住改造事業の例として
- 上海市の高齢者施設の立地問題及び政府機能転換に関する一考察
- 中国農村地域における教育問題と教育NGOについて
 - 雲南省徳広景頗族自治州の組織Aを例として —

論文指導

大 川 昌 利 OKAWA Masatoshi

研究・指導分野 経済学や法学、政治学等の学際的な観点からの研究を進めています。

Message 金融政策・金融実務の現場で蓄えた経験を研究・教育の発展に少しでも貢献するよう活用したいと思っています。

Keyword 財政金融、日本経済、国際金融、貨幣論、国際的銀行規制、経済成長

大 山 徹 OYAMA Toru

研究・指導分野 刑法総論における錯誤論の研究および刑法各論における財産犯の研究

Message 刑法法規相対間の論理的な関係が正確に理解できるよう日頃から条文をよく読んで頂きたいと思います。裁判例の中には「場当たり的なもの」もありますが、学説の分析を通して、裁判例の特徴もより良く把握できるようになります。

Keyword 具体的事案の錯誤、抽象的事案の錯誤、強盗罪、詐欺罪

小 田 信 之 ODA Nobuyuki

研究・指導分野 金融政策や金融市場など、金融関連分野を中心にマクロの研究をしています。

Message 金融政策と財政政策の接近や超低金利の出現など、近年の金融環境の変化を掘り下げるような研究と教育を目指しています。

Keyword 金融政策、金融市場、金融システム、中央銀行

糟 谷 崇 KASUYA Takashi

研究・指導分野 企業の境界、モジュール化、ICTなどについて経営学の視点から取り扱っています。

Message 近年のIoTやAIなどは産業構造を劇的に変化させる可能性があります。当然、企業経営のあり方もそれに伴い大きく変化するでしょう。これからの経営学について一緒に研究しましょう。

Keyword 企業の境界、モジュール化、ICT、IoT、人工知能、ビジネスモデル

川 村 真 理 KAWAMURA Mari

研究・指導分野 人権法・人道法・難民法・国際機構法(特に国際連合)を軸に、現代国際法構造の特性と展開を主たる研究分野としている。

Message 平和・人権・人道等世界的問題に対処する、国際社会の諸活動の法構造と国際機構について、テーマ設定、文献調査方法、具体的研究計画、論文作成について指導を行う。

Keyword 国際法、国際機構、国際協力、人権・人道

木 暮 健太郎 KOGURE Kentaro

研究・指導分野 現代民主主義理論、インターネットと政治、eガバナンスに関する研究を行っています。

Message はっきりとした目標をもったときに、人は本気で頑張れるのだと思います。その目標は、自分自身の力で探さなければなりません。だからこそ、「甘え」は許されないのです。なぜなら、すべては自分自身の大切な未来のためだからです。どうか、大学という場で、一生懸命にそれぞれの日常を生きて、得がたい「何か」を見つけてください。

Keyword 現代民主主義、eガバナンス、政治コミュニケーション論

進 邦 徹 夫 SHIMPO Tetsuo

研究・指導分野 中央－地方関係、市民参加・協働、コミュニティに関する研究を行っています。

Message グローバル化が進み、中央政府と地方政府の関係、地方政府と地域の関係、地域社会(コミュニティ)そのもののあり方も大きく変化しています。日本を中心とした東アジアにおける中央－地方関係について、研究を進めたいと思います。

Keyword 地方自治、市民参加・協働、コミュニティ

田 中 信 弘 TANAKA Nobuhiro

研究・指導分野 経営学のアプローチによる企業の国際ビジネスに関わる諸問題を主たる研究分野としている。

Message 国際ビジネスに関する修士論文の研究テーマおよび論文作成の手順などについて、受講者と相談の上、指導を行う。論文作成の上で、随時、研究発表を行っていただき、その進捗状況を確認していく予定です。

Keyword 経営学、国際ビジネス、経営戦略、経営組織、経営管理、コーポレート・ガバナンス、CSR

知 原 信 良 CHIHARA Nobuyoshi

研究・指導分野 法人税法、所得税法、消費税法、租税・財政政策、税務リスクと企業統治、ボランティア経済、地方自主税源

Message 皆さんには、大きな可能性があります。大学院生活で、是非とも多彩な経験を積んでもらいたいと願っています。そのお手伝いをしたいと思っています。チャレンジしてみてください。そこからは是非とも等身大の感動を数多く経験してみてください。

Keyword 税法、租税法、地方税、税源配分

内 藤 高 雄 NAITO Takao

研究・指導分野 会計制度の国際的統一、および各国会計制度とわが国との比較会計研究

Message 大学は知識を教員から一方的に与えられるところではなく、自ら研究心を持って学び、考え、そして真理の探求をするところだと思います。日常生活のさまざまな出来事に疑問を持ち、それについて調べ、考え、学ぶところだと思います。大学院生の自主的な研究成果を大いに期待しております。

Keyword フランス会計制度、国際会計、財務会計

西 孝 NISHI Takashi

研究・指導分野 国際マクロ経済学の諸分野、とりわけ為替レート変動、国際通貨制度、財政・金融政策の国際的波及と協調のメカニズムを主たる研究分野としている。

Message 上記のテーマについて、学術論文作成の作法に則り、かつ理論的・実証的に自らの主張を裏付けることのできる論文制作を指導する。

Keyword 為替レート、国際通貨制度、財政政策、金融政策、政策協

長谷部 弘 道 HASEBE Hiromichi

研究・指導分野 産業労働社会学、経営史、労務管理史、企業内教育・経営者教育にかなする歴史研究

Message 雇用関係を中心に形成されてきた日本の雇用システムが、過去からの連続の中でどのように変化しているのか、またそれは具体的に私たちにどのような影響を及ぼしているのかという問いを土台に、具体的な事例を歴史的に掘り下げて研究していきます。

Keyword 産業労働社会学、技術者、労務管理、企業内教育、経営者教育

原 田 奈々子 HARADA Nanako

研究・指導分野 近世期の三井家における会計構造および財務状況に関する研究

Message 目標・目的意識を持って欲しいと思います。その目標実現に向けて学ばば学ぶほど分からないことが増え、さらに学ばなければならないかもしれません。しかしそういうプロセスを経て初めて、確実に知識が蓄積され、思考能力が養われます。

Keyword 三井家、財務会計、国際会計、簿記R

半 田 英 俊 HANDA Hidetoshi

研究・指導分野 近現代の日本政治

Message 明治時代の大蔵省の政策と政治の関わりについて研究しています。日本政治史に興味のある方、政治学の切り口からみた歴史の論文の書き方を一から指導したいと思います。

Keyword 日本政治史、明治時代、太政官制

藤 原 究 FUJIWARA Kiwamu

研究・指導分野 民法、法人と法

Message 民法(債権法、不法行為法、家族法)を研究対象としています。目的意識を持った意欲ある学生のみなさんを歓迎します。

Keyword 民法、不法行為、法人、家族法

劉 迪 LIU Di

研究・指導分野 現代中国政治、現代中国外交、近現代中国政治思想史、華僑・華人問題、日中関係

Message 近現代中国の諸問題を多角的視座よりアプローチし、その本質を見極め、今後の発展の趨勢を見通す。資料収集・解説、現地調査、先行研究の分析、研究方法の選定、論文作成等を指導する。

Keyword 中国政治 中国外交 中央地方関係 華僑華人 日中関係

渡 辺 剛 WATANABE Takeshi

研究・指導分野 現代中国・台湾政治論及び社会論、東アジア比較政治体制論、東アジアの国際関係と安全保障について研究を進めている。

Message 上掲の分野に関連した修士論文執筆の指導を行う。論文のテーマ設定、プロット構築、資料・文献収集、分析手法、草稿のチェック等が対象となる。その為には、細かな段階毎にレジメを作成し報告を行っていただく。その報告に対する批評と助言をフィードバックさせて論文完成を目指す。

Keyword 中国、台湾、政治体制、政治論、社会論、国際関係、安全保障



博士前期（修士）課程

国際医療協力専攻

Major in International Medical Cooperation (Master's program)

本専攻の 理念・目的

国際医療協力専攻は、世界諸地域に対する保健医療分野の国際協力に必要な幅広い知識と高度な理論を身に付け、国際社会での実践活動に貢献すると共に、問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を活かすことのできる人材の養成を目的としています。

本専攻の 教育方針と 概要

国際医療協力専攻は、世界諸地域、特に発展途上国に対する保健医療分野の国際協力に必要な幅広い知識と理論を身につけ、問題解決に向け課題を設定・研究し、その成果を活かすことのできる人材を養成しています。学際性が高い分野であることに対応して、医療系ばかりでなく、人文社会系の関連科目も充実しています。また、データの処理・分析方法なども学ぶこともでき、さまざまなバックグラウンドを持つ大学院生が、他分野の科目を無理なく履修できるカリキュラム構成となっているのが特徴です。

授業科目概要

保健医療研究法 I RESEARCH METHODS FOR INTERNATIONAL HEALTH I	出嶋 靖志	保健医療研究法 II RESEARCH METHODS FOR INTERNATIONAL HEALTH II	岡村 裕
科学研究とはどのようなことなのかについて基礎から学ぶ。研究計画、仮説の構築、研究実施とデータ収集、データ分析、結果の評価、情報伝達の基礎知識と論文の作成、といった基本事項について説明する。さらに、論理的思考法、倫理的配慮、について触れながら、毎時間、演習を行う。		国際医療協力に関する研究と実践を進めるに当たって不可欠な基礎知識および技能を、講義と演習によって習得する。課題解決に必要なデータと文献を収集する方法、文献を要約して伝達・公表するスキル、研究デザインと実施計画の設計方法、統計調査の方法と特徴などについて学習する。	
環境保健学特論 ENVIRONMENTAL HEALTH	出嶋 靖志	国際疫学特論 EPIDEMIOLOGY OF INTERNATIONAL HEALTH	北島 勉
始めに、環境や生態学に関する基礎講義を行う。次に、健康に影響を及ぼす環境要因について、日常生活の中身の身近な環境汚染問題からスタートし、地域・国・地球レベルへ視点を広げていく。講義中心であるが、特定のテーマを分担して調べたり、学術論文を輪読したりしながら思索を深める。		国際保健の課題に関連するデータを用いながら、疫学研究における基本的な概念と方法について説明する。授業では、講義と保健統計の演習を組み合わせで行う。	
人類生態学特論 HUMAN ECOLOGY	出嶋 靖志	母子保健学特論 MATERNAL AND CHILD HEALTH	佐々木 裕子
人類生態学(Human Ecology)は健康科学の最も基礎的かつ中核的学問分野である。人類は、700万年ほど前にアフリカに出現して以来、数百万年にわたって生息域を広げ、地球上の様々な地域で、様々な気候、風土の中に暮らしている。自然環境が異なると、手に入る食物も異なり、地域に特有の食文化や社会システムが生まれる。時代の変化とともに「環境と人類との関わりがいかに関に健康に影響するか」は、ますます重要なテーマとなりつつある。現在指摘されている深刻な地球規模の環境問題は生態系の一員である人類の諸活動によってもたらされたものである。本講義は大学院レベルの授業の一つとして、人の健康とエコロジーについて本質的理解を深める。		次世代を担う子ども達が心身ともに健やかに育つことは世界共通の願いである。このためにはまず、健全な母性、つまり妊娠するより前の思春期における母性の健全な発達が鍵となる。このように母子の健康は循環し、ライフサイクルを通じた支援が必要である。一方、新生児・乳児死亡率、妊産婦死亡率からみた日本の母子保健の水準は世界トップレベルであるが、近年、少子化、地域のつながりの希薄化、ハイリスク妊娠・出産の増加、低出生体重児の増加、産後うつによる自殺や育児不安の問題、児童虐待の増加など、母子を取り巻く社会状況は著しく変化し課題は山積している。本授業では、これら母子保健の課題について理論的背景や法的根拠の提示、国内外のデータや施策との比較、文献検討を通しながら課題解決に向けた支援の糸口を探り、保健医療職の役割について検討する。	

研究分野

基礎科目(1年次の履修を推奨)

- 統計学
- アカデミック・ジャパニーズ
- アカデミック・ライティング

国際保健学研究

- 保健医療研究法Ⅰ
- 保健医療研究法Ⅱ
- 環境保健学特論
- 人類生態学特論
- 母子保健学特論
- 国際疫学特論
- ヘルスコミュニケーション特論
- 環境経済学特論

国際医療研究

- 感染症・寄生虫学特論
- 災害医療特論
- 医療協力関連法規論
- 医療特論
- 基礎医学特論
- 医療社会学特論
- 医療経済学特論
- 疾病概論

国際福祉研究

- 高齢者福祉特論
- 国際社会保障特論
- 国際児童福祉特論
- 福祉サービス管理特論
- 障害者福祉特論

論文指導

- 論文指導

環境経済学特論	ENVIRONMENTAL ECONOMICS	齊藤 崇	感染症・寄生虫学特論	INFECTIOUS DISEASES	藏田 訓
新聞やTVなどで、環境問題の話題が取り上げられることも日常的になってきた。環境問題の原因や解決策については、いろいろな学問的立場から考えていくことができる。そのなかで社会科学的方法のアプローチのもとで環境問題を考えることの重要性がひろく認識されてきている。この授業では、環境問題や環境政策について、おもに経済学の立場から考えていくとともに、現実の制度にも目を向けていく。この授業を通じて、環境問題に対する論理的な捉え方を学ぶとともに、現実の制度等についての理解も深めていってもらいたい。授業では、取り扱うテーマに関する基本的な知識を身に付け、受講者との議論を交えて理解を深めていく。またテーマに関連した文献を読むことを通じて、自分の研究につながるものを見つけていってもらいたい。			人類と微生物の歴史は、戦いと共存の歴史である。微生物は人類の生存・生活に必要である一方、感染症の“病原体”として人類の健康と生命を脅かしている。そして、病原微生物による感染症は地球のいたる所に蔓延し、未だに終焉の兆しを見ることができない。本授業では、国内外における感染症の現況、微生物の分類と特徴、病原性と感染のメカニズム、感染症の治療と予防、感染症対策の現在と未来について、様々な視点でから解説する。なお、医療看護系学部・学校以外の出身者に対しては、微生物学の基礎を学ぶ機会を設定する。		
ヘルスコミュニケーション特論	HEALTH COMMUNICATION	マルコム・ヘンリ・フィールド	医療特論	MEDICAL PHARMACOLOGY	櫻井 裕之
Health is not a phenomena restricted by borders. As such, communicating about health and health-related issues needs to be delivered in ways that account for context. Identifying alternative ways of communicating may open up opportunities to disseminate information across multiple contexts. Context is not limited to different geographical or physical locations, but is inclusive of profession, gender, ethnicity, age, language and the medium itself. This course will consider existing and potential ways communication can be implemented to improve and enhance the uptake of health-related information. This course is taught in English and a strong emphasis is made upon the student being able to discuss and defend their work and practices.			医療のなかでも、薬物治療の原則について講義する。その基礎になるのは薬理学である。薬物標的、薬力学、薬物動態、副作用、新薬開発といった総論に加え、主要疾患の病態生理とそれに対する治療戦略について扱う。Among the broad fields of medicine, this lecture focuses on the principles of medical therapeutics, which is based on medical pharmacology. Drug receptors and therapeutic targets, pharmacodynamics, pharmacokinetics, side effects, drug development will be discussed in the frame of general pharmacology. We will pick up a few diseases of students' choice and discuss their pathophysiology and modern therapeutic strategies, stressing on how these general principles are applied in real patient care.		
災害医療特論	DISASTER MEDICINE	橋本 雄太郎	医療経済学特論	HEALTH ECONOMICS IN DEVELOPING COUNTRIES	北島 勉
内外の自然的、人為的災害において多数傷病者が発生した際の、コメディカルスタッフによるプレホスピタルケアをめぐる諸問題について法律学の視点から考察します。			本講義では、発展途上国の健康問題を経済学的な視点から学習する。医療経済学は様々なテーマを研究対象としているが、その中でも経済成長と健康の関連、市場経済と医療の関係、保健医療サービスの提供や利用にかかる費用、様々な医療費の負担方法について取り上げる。		
基礎医学特論	BASIC MEDICINE	大崎敬子／花輪智子	医療社会学特論	MEDICAL SOCIOLOGY	刈田香苗／吉田正雄
WHOの報告では世界の死亡原因の32%(1790万人)は感染症であり、呼吸器感染症、下痢症、結核、HIV/AIDS、マラリア、等が上位を占めている(WHO fact sheet 2014)。発展途上国、特にサハラ以南のアフリカ地方では2人に1人が感染症で死亡している。基礎医学特論では微生物学、感染症学の基礎知識を習得し、感染症の病態、診断、治療および予防について理解する。加えて、国際医療協力の実情についても学ぶ。			わが国の公衆衛生や保健・医療の課題をとりあげ、疾病予防し健康を保持・増進するために社会や環境はどうあるべきかについて考える。授業には統計分析の演習やケースメソッドによるシミュレーション・エクササイズ(SE)を取り入れ、模擬事例について討議し、対応や解決策を考えながら社会医学上の様々な問題に関する理解を深める。		
疾病概論	INTRODUCTION TO HEALTH AND DISEASES	刈田香苗／吉田正雄	国際児童福祉特論	CHILD WELFARE AND FAMILY SERVICES	赤嶺 恵理
国際保健医療協力における予防医学の主な目的は、世界諸地域の人々の健康の保持増進(保健)と疾病予防である。その領域は非常に広く、成人・高齢者保健、学校保健、地域保健、精神保健、食品保健、感染症対策、医療政策、生命倫理など、人の一生のあらゆるライフステージにおける健康の保持増進や疾病予防と関連が深い。本授業では、国際保健医療協力を実践するための公衆衛生活動と各領域における健康の保持増進や疾病予防対策について様々な視点から学習し、議論する。			児童の権利条約が国連で採択されてから約30年が経とうとしている。世界各国ではさまざまなアプローチによって子どもを守る仕組みが築かれているが、現在もさまざまな形態の暴力や人権侵害にさらされている子どもたちが存在している。本講義では、子どもに対する暴力や人権侵害が社会においてどのように捉えられ、子どもたちや家庭にどのような介入が行われているのかを理解し、社会福祉の役割と課題について検討を行う。		

医療協力関連法規論 COMPARATIVE MEDICAL LAW	大山 徹	福祉サービス管理特論 SOCIAL WELFARE ADMINISTRATION	岡村 裕
医療をめぐる法律問題に関する総論的な講義を行う。具体的には、非医療従事者である皆さんが友人に全治2カ月の怪我を負わせると傷害罪に問われるのに、外科医が開腹手術を実施しても傷害罪に問われないのは何故か、という疑問からスタートして、医師患者関係、体外受精、安楽死や延命処置拒否といった生命に直接かかわる問題について法律学の視点から考える。医事法という名称のついた実体法は存在しないが、医師法、医療法等の医療関係法規や、民法の契約・不法行為、刑法の正当業務行為や業務上過失致死傷罪など、関連する種々の法規を駆使しながら考察する。さらに、「コトバ」が無用な紛争を引き起こす要因になることに鑑み、この問題について、言語学が専門の玉村教授と共同で検討します。		本講義では、福祉サービスの提供組織の特徴と管理について、介護政策と介護サービス提供組織の現状を中心に解説する。介護サービス提供組織は介護資源をどのように確保し、分配するかについての意思決定を日々行っている。この介護資源の確保および分配のあり方について、様々な事例を提示しながら考える。主として介護保険制度の概要および諸問題について理解を深める。	
高齢者福祉特論 SOCIAL SERVICES FOR THE ELDERLY	片桐 朝美	障害者福祉特論 SOCIAL SERVICES FOR PERSONS WITH DISABILITIES	井上 敦
高齢者の身体的特徴や取り巻く環境・社会問題について触れる。そして高齢者福祉制度の発展過程および近年の社会保障制度とサービスのしくみについて学んでいく。		現代の社会福祉において、障害は主に次の四つに分類されている。すなわち、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害である(近年では、これらにさらに難病が加わる)。これら四つの障害を理解するにあたっては、それぞれの根拠法を正しく、的確に理解することが欠かせない。それにとどまらず、各根拠法の成立背景や現代障害者福祉の実態、それらを取り巻く社会福祉全体の変遷・現状を理解することも重要である。 したがって、本講義は障害者福祉分野における基本的な関係法規及び制度的内容やその運用のあり方を理解するとともに、障害者一人ひとりがいかなるニーズをもって生活しているのかを考え、学習することを目的としている。それに伴い、障害をもつ・もたないにかかわらず、誰もが「ふつう」の生活を送ることができるように人びとの理解を促進し、かつ社会環境を整えることを目的としたノーマライゼーションの理念(さらにはバリアフリーやユニバーサルデザイン、合理的配慮等)はいかにして実現可能かをともに考えていく。	
国際社会保障特論 COMPARATIVE AND INTERNATIONAL SOCIAL POLICY	松井 孝太		
先進諸国の多くでは経済のグローバル化や少子高齢化の進展にともない社会保障制度の見直しを迫られている。本授業では年金、医療、労災、失業保険などの伝統的な社会保障政策に加えて介護、住宅、教育、家族給付、積極的労働市場政策など、社会保障に関連する幅広い政策領域について、教科書の輪読(担当者による報告とディスカッション)と補足的講義を中心に進める。			



修士論文題目 (過去3年間)

- 日本におけるデング熱の経済的負担に関する研究
- タイ王国・コンケン病院における乳ガン治療に関する費用分析
- 中国の中老年層における、高血圧と糖尿病の認知度及びその規定要因 — 内モンゴル赤峰市における調査から —
- 日本と中国における結核患者の動向と結核対策に関する一考察
- AQI (Air Quality Index: 空気品質指数) と喘息の関係について — 中国・貴州省・貴州医科大学付属病院における受診記録の分析より
- 中国における子どもの権利と児童虐待の認知に関する研究 — 保育専攻大学生と非保育専攻大学生との比較 —
- 日本のシルバー人材センターの現状と課題に関する研究 — 中国の現状に有効な就労対策のための一考察 —
- 中国における院内感染対策の現状と問題点に関する一考察
- 中国における多剤耐性アシネトバクター・バウマニの分離状況と感染

対策に関する一考察

- インタビューアのストラテジー変化 — テレビの対談番組における質問とFTA —
- 介護離職防止における「介護休業法」と「介護保険法」の有効性及び課題
- 中国都市部における中高年者慢性非感染疾患(NCD)に関する研究
- 日本と中国における使用済家電製品の再商品化の研究
- 在日中国人の出産に影響を及ぼす要因に関する研究 — 在日中国人家庭の出産と育児援助方策の提言に向けて —
- 中国の大気汚染問題と防止対策についての研究
- 中国敬老院の現状と課題 — 安徽省五河県における事例研究 —
- 入浴施設におけるヒートショックの危険性について — 日本と中国における実態調査に基づく考察 —
- 中国留守児童が抱える生活上の諸問題に関する研究

論文指導

大崎 敬子 OSAKI Keiko

研究・指導分野 現在の研究テーマはヘリコバクター・ピロリ感染症の細菌生態学的解析です。研究指導が可能な分野は消化器系感染症および腸内マイクロビオータ関連分野です。

Message 受講生と一緒に感染症またはマイクロビオータに関わる問題点を探求していく予定です。専門分野の論文の抄読を行いながら、論文の読み方、書き方を身に着けることを目標とします。

Keyword ヘリコバクター・ピロリ、マイクロビオータ

岡村 裕 OKAMURA Hiroshi

研究・指導分野 高齢者の介護政策が主たる研究分野です。近年は「外国人介護労働者の受け入れ政策」をテーマとしています。

Message 高齢者の介護関連の諸問題を中心に論文作成の指導を行います。実証研究の方法としては疫学的な手法、政策規範研究の方法としては倫理学・政治哲学的な思考方法を訓練します。

Keyword 高齢者の介護政策、疫学、倫理学・政治哲学

莉田 香苗 KARITA Kanae

研究・指導分野 公衆衛生学、健康科学、医療統計、産業衛生

Message 公衆衛生領域における課題の解決に向け、ケースメソッドと統計分析手法を取り入れた演習を行い、論文作成のための論理的思考力を鍛えます。

Keyword 医療・保健の科学、健康リスク、事例分析、統計解析

藏田 訓 KURATA Satoshi

研究・指導分野 細菌性呼吸器感染症、腸管感染症の発症メカニズムと診断法について。宿主の過剰免疫応答により肺を含む様々な臓器に病態を形成する、肺炎マイコプラズマ感染症の発症機構について研究を行っています。

Message 論文の抄読を通して現代の感染症の特徴を理解してもらいます。感染症学の要素である「疫学・診断・治療・予防」に着目してデータを収集・解析し、論文を作成する方法を指導します。

Keyword 細菌感染症、マイコプラズマ・ニューモニア、宿主免疫応答

北島 勉 KITAJIMA Tsutomu

研究・指導分野 医療経済学、疫学をベースに、保健医療の課題に取り組んでいる。最近のテーマは、抗HIV多剤併用療法の利用、生活習慣病予防の経済評価、保健統計の活用など。

Message ゼミナール形式で、個々のテーマについて報告し、議論を重ね、論文作成に向けて準備をしてもらいます。論文の執筆については、個別に指導をします。

Keyword 医療経済学、地域保健、途上国

斉藤 崇 SAITO Takashi

研究・指導分野 専門分野は環境経済学、環境政策です。担当者の最近の研究テーマは廃棄物・リサイクルについてですが、授業では環境・資源の問題について広く扱っていく予定です。

Message 受講生の関心のあるテーマについて、文献の輪読や研究報告、議論等を通じて、専門論文の読み方・書き方について身に付けていってほしいと思います。

Keyword 資源・環境問題、経済学、環境政策、制度

櫻井 裕之 SAKURAI Hiroyuki

研究・指導分野 腎臓の発生・再生のメカニズム、トランスポーターを標的とした新規抗がん療法、がんの浸潤・転移メカニズム、尿酸輸送システム

Message がん、発生生物学、分子細胞生物学の領域から適切な課題を選んで、研究室での実験(ベンチワーク)を中心に論文を作成します。実験に十分な時間と労力を当てられる人を希望します。

Keyword がん、トランスポーター、発生、腎臓

出嶋 靖志 YASUSHI Dejima

研究・指導分野 人間と環境との関わりが、健康にどのような影響を及ぼすかについて、様々な視点で研究します。環境に関係する、全ての人間活動が対象です。

Message 「データを集め、分析し、わかりやすく正確な論文を書く」科学論文の基本から指導します。

Keyword 環境、健康、生態学、栄養学、観光論

花輪 智子 HANAWA Tomoko

研究・指導分野 感染症の予防・治療への応用を目的として、病原細菌がどのように感染し、定着して感染症を引き起こすかについて研究しています。

Message 感染症は世界的規模での流行を視野に入れ、注視しなければならない時代です。世界における既存のワクチンの持つ課題をふまえ、現在の感染症事情について調査研究してみませんか。

Keyword 病原細菌、ワクチン、感染症動向

マルコム・ヘンリ・フィールド FIELD Malcolm Henry

研究・指導分野 Information and Communication Technologies and Communication Methods with relation to health and science education

Message We will adopt a hands-on task-based seminar that will be interactive as professionals from different areas we all have valuable ideas to offer; we will develop practices around theories and identify needs and seek solutions both for both domestic and international cases.

Keyword Communication; Health Communication, Health ICTs, Human Mind

吉田 正雄 YOSHIDA Masao

研究・指導分野 生活習慣病と予防医学、高齢者の保健・医療・福祉、生命倫理

Message 生活習慣病のリスクファクターや抗加齢医学に関する臨床疫学、高齢者医療の現状と未来を中心に論文作成の指導を行います。

Keyword 予防医学、臨床疫学、高齢者医療、生命倫理



博士前期（修士）課程

グローバル・コミュニケーション専攻

Major in Global Communication (Master's program)

本専攻の 理念・目的

国際協力研究科グローバル・コミュニケーション専攻は、わが国を取り巻く国際社会および、国内で進む多文化共生社会にあって、互いの文化・言語・社会に対する理解の欠如等に起因する諸問題解決のため、異文化間コミュニケーションの専門分野に熟達し、理論と実践、複眼的視座からの深い知見と洞察力をもとに、国内外でこの分野の先導的な役割を担って活躍しうる研究者、および高度専門職業人に必要な諸技能を身につけた人材の養成を目的としています。

本専攻の 教育方針と 概要

国際協力研究科では、博士前期課程の国際文化交流専攻および国際言語コミュニケーション専攻を統合、「グローバル・コミュニケーション専攻」とし、学術研究者および高度専門職業人として、いわゆるIEPs(Interculturally Effective Persons)、すなわち本専攻人材の養成その他の教育研究上の目的に謳う、国際社会および、国内で進む多文化共生社会にあって、互いの文化・言語・社会に対する理解の欠如等に起因する諸問題解決のため、異文化間コミュニケーションの専門分野に熟達し、理論と実践、複眼的視座からの深い知見と洞察力をもとに、国内外でこの分野の先導的な役割を担って活躍しうる人材を養成することとしています。本専攻は3つの研究分野【日中通訳翻訳研究】【英語分野】【日本語研究】をもち、それらは、国際社会だけでなく、グローバル化の進む国内の多文化共生社会を目指す現現状においても、地域社会、企業、社会活動団体、さらに個々人の日常生活の場にいたるまで、様々な分野で、職業的ニーズにも対応するものであります。

授業科目概要

日中通訳概論 INTRODUCTION TO JAPANESE-CHINESE INTERPRETING	宮首 弘子(張 弘)	日中逐次通訳特論 JAPANESE-CHINESE CONSECUTIVE INTERPRETING	醍醐 美和子
本概論は、主に通訳に関する講義及び講読を中心とするが、適宜に外部講師などのゲストを招いてのワークショップという形式で授業を進める。その間、通訳現場の実情説明及び通訳の心得、役割、歴史、倫理や通訳の作業、形式、訓練方法を理解し認識すると同時に関連の知識、用語表現、情報を収集整理につとめ、通訳現場で通じる能力と素質の向上及び方法、技術の習得をはかり、通訳の理論と実践についての基礎を固めることを目標とする。日本語能力検定1級或いは中国語HSK8級のレベル以上であること。毎回出席すること。受講マナーも重視する。受講者は原則として、「日中逐次通訳特論」を同時に履修すること。開講時に筆記ならびに面接試験を行い、受講の可否を決定する。その後の受講受付はしない。		本講義は、日本語－中国語間の逐次通訳の方法や技術を学ぶ。まず、通訳現場の実情説明及び通訳の心得や役割を理解した上で、シャドーイング、リプロダクション、リテンション、ノートテイキング、サイトトランスレーションなどの訓練を通じて、通訳技術を習得する。その後、さまざまな分野（時事、文芸、映像、ビジネスなど）を対象に、実技訓練（ロールプレイなど）を中心に、特に逐次通訳の能力を高め、併せて一般知識、背景知識、現場知識を理解し認識することにより、現場で通じる能力や技術を習得することを目標とする。日本語能力検定1級或いは中国語HSKでは「旧HSKで8級、新HSKで6級」のレベル以上であること。毎回出席すること。受講マナーも重視する。受講者は原則として、「日中通訳概論」「日中翻訳概論」を同時に履修すること。開講時に筆記ならびに面接試験を行い、受講の可否を決定する。その後の受講受付はしない。	
日中翻訳概論 INTRODUCTION TO JAPANESE-CHINESE TRANSLATION	板垣 友子		
翻訳とは何か、日本語と中国語の間の翻訳にはどのような特徴があるのかを基本的に認識する。その上で、各分野のさまざまな表現形態の文章の翻訳を実践的に学ぶ。日本語能力検定1級或いは中国語HSK 6級レベル以上であることを原則とする。			

研究分野

基礎科目(1年次の履修を推奨)

- 統計学
- アカデミック・ジャパニーズ
- アカデミック・ライティング

日中通訳翻訳研究

- 日中通訳概論
- 日中翻訳概論
- 日中比較文化論
- 日中逐次通訳特論
- 日中同時通訳特論
- 通訳理論と技法特論(中国語分野)

英語研究

- 英語コミュニケーション概論
- 国際言語文化論(英語分野)
- 日英比較言語社会学特論
- テキスト言語学特論
- 英語学特論
- 応用言語学特論

日本語研究

- 日本語構造論
- 言語文化相関論
- 日本語言語文化特論
- 日本語教育特論Ⅰ
- 日本語教育特論Ⅱ
- 対照音韻学特論

共通科目

- 言語学特論
- 日本文化特論
- 観光文化論
- 日欧文化交流史

論文指導

- 論文指導

日中比較文化論 COMPARATIVE STUDY OF JAPANESE AND CHINESE CULTURES	詹 満江	日中同時通訳特論 JAPANESE-CHINESE SIMULTANEOUS INTERPRETING	張 弘
日本人の漢詩を読みます。主に江戸時代以降の漢詩を中国の詩と比較しつつ読むことによって、当時の日本人がいかに異国の文化である漢詩を自家筆籠中のものとしていたかを知ることができるでしょう。朱子学を国学と定めた徳川幕府は、「忠」「孝」の思想を政権安定に役立てようとしたようですが、その副産物として、武士階級を中心とした多くの漢詩人を輩出することになりました。日本人にとって外国語である漢詩は、「訓読」という特殊な翻訳法によって、受容されていました。その「訓読」という特別な翻訳法を考えつつ、日本人の作った漢詩を読んでみましょう。		本特論は、「日中逐次通訳特論」の続きで、主に日本語－中国語間の同時通訳の方法や技術を学ぶ。授業の形式として、実際の通訳現場をシミュレーションしながら、ブースの中で訓練することを通じて、同時通訳即ち会議通訳ができるような能力や技術、持つべき知識やマナーを習得することを目標とする。場合によっては、ゲストを招いてのワークショップや、実際の国際会議の見学等を行う予定である。	
通訳理論と技法特論(中国語分野) THEORY AND PRACTICE OF INTERPRETATION (CHINESE)	醍醐 美和子	国際言語文化論(英語分野) WORLD LANGUAGES AND CULTURES (ENGLISH)	赤井 孝雄
本講義は、日本語－中国語間の通訳の分野の歴史、現状、その将来性及び方法論、技術論に関する内容の講義を行いながら、日中両言語による各種関連文献、資料を講読する。 その後、各自でテーマを決め、リサーチを行い、レポートの形で整理作成したものを教室内でプレゼンテーションし、かつ、全員によるディスカッションをしながら結論をまとめ、最終的に研究レポートとして仕上げていく。 日本語能力検定1級或いは中国語HSK6級のレベル以上であること。毎回出席すること。受講マナーも重視する。		この授業では、contemporary(同時代と現代)な視点からイギリスの言語文化の特質を考えてゆく。ある国や地域の文化は、その言語の中に濃密に表れている。英語圏、特にイギリスの言語文化の中核を成す作品の分析をととして、作品が生み出された文化的、社会的背景を描きだしたい。いわゆる文学史的な解説を目的とするのではなく、作品そのものが語る時代背景を読み取ってゆく。あわせて、現代の文化や社会の視点から、その作品の現代的意義についても考察する。	
英語コミュニケーション概論 INTRODUCTION TO ENGLISH COMMUNICATION	坂本 ロビン	英語学特論 WORLD ENGLISHES	イアン・ランバート
This course will introduce the student to diverse communication styles focusing mainly on the differences between English communication and the student's native language. Weekly exercises will focus on honing the necessary skills to interpret communication styles and suggest pathways for future study.		This class will introduce students to the fields of World Englishes and English as a Lingua Franca, with the focus on building awareness of current issues in the field as well as the origins of different varieties of English.	
日英比較言語社会学特論 COMPARATIVE STUDIES IN LANGUAGE AND SOCIETY (ENGLISH AND JAPANESE)	高木 眞佐子	テキスト言語学特論 TEXT LINGUISTICS	岩本 和良
本講義では、中世後期のその著作が、大航海時代にまで広範な影響を与えることとなった事実で知られるジョン・ハーディングの年代記(1460年頃)を扱う。この作品が設立した背景について考察を深め、サー・トマス・マロリーの『アーサー王の死』(1485)に影響したかどうか、また、影響したとすればどの程度だったかの推論を試みる。中世イングランドの王家の歴史の概況、また年代記と英雄伝説の区別のなかった時代におけるナラティブの特徴の概況を十分に理解した上で受講して欲しい。授業では①英語論文を読み、これのまとめと考察をおこなう②ハーディングの年代記設立の複雑な経緯を踏まえた上でRichard Graftonの第2版(1543年、STC 12766.7)を読む③独自の考察を加えて研究発表の練習をする、の3点を主軸とする。		人間が言葉を用いて意味のやり取りをする際には必ずコンテキストがあり、同時に、言葉を用いて意味を生成することによってコンテキストを作り上げ、発展させている。つまり、言葉とコンテキストは双方向的に影響を与えており、言葉の使われ方を理解するは、私たち人間の理解にもつながる。本講義では英語という言語に焦点をあて、言語学的観点から実際に書かれた、又は話されたテキストを分析し、その言語使用の中にパターンを見つける。テキスト分析に関する理論的枠組みは様々であるが、この講義では、コンテキストを含めた記号資源を包括的に一つの枠組みとしてシステム化した選択体系機能言語学を用いる。分析するテキストや配布資料、参考書なども全て英語になる。	
応用言語学特論 APPLIED LINGUISTICS	八木橋 宏勇	日本語構造論 JAPANESE SYNTAX	金田一 秀穂
認知言語学は、Chomskyによる文法を中心とした言語理論である「生成文法」に対するアンチテーゼとして、1980年代にGeorge LakoffやRonald Langackerの研究からその名称を与えられた理論言語学の枠組みである。言語を独立したモジュールと捉える生成文法の対極に位置し、個別研究を積み重ねながら、関連諸分野との協同研究を積極的に行うことで漸次理論を深化させてきた。本講義は、認知言語学の前提を「精確に」理解することから始める。最終的には、「形式と意味の有契性(動機づけ)」と「用法基盤モデル」の観点から日常の言語現象を分析的に考えるトレーニングを通して、ことばに関する様々な現象への興味関心および洞察力を深めることを目的とする。授業は、以下の二本立てで展開されていく予定である。 【A】: 担当者が主導するディスカッション形式の基礎演習 【B】: 学生によるプレゼンテーションと発展演習		国内で最も多く使われている日本語教科書「みんなのほんご」を取り上げて、各課で扱われる文型、語彙、表現を、教師の視点から分析する。今年度は、昨秋学期に、15課まで進んだため、16課から始める。通年なので、秋には続きをする予定。	
		言語文化相関論 LANGUAGE AND CULTURE	楠家 重敏
		16世紀から19世紀の日本語学習と日本研究の足跡をたどり、その特徴と諸問題を講義する。	

日本語文化特論 JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE 河路 由佳	日本語教育特論Ⅰ JAPANESE LANGUAGE EDUCATION I 荒川みどり
古来、何らかのきっかけで日本語をもう一つの言語として学習し、身に着けた人々がいた。かれらは、日本語、および日本語による表現について、どのような「発見」をし、どう感じ、どう使ってきたのだろうか。 16世紀のキリシタン宣教師から現代まで、主だった人々の著述からたどっていく。	いわゆる「日本語教育文法」とはなにか。参考図書、論文を輪読する。授業でとりあげた文献を出発点として、各自が特に興味を抱いたテーマを選択し、レポート執筆や発表報告を行う。
日本語教育特論Ⅱ JAPANESE LANGUAGE EDUCATION II 荒川みどり／河路由佳	日欧文化交流史 HISTORY OF CULTURAL EXCHANGE BETWEEN JAPAN AND EUROPE 楠家 重敏
初級用総合日本語教科書の分析・初級の教え方・学習者と教師の関係など初級レベルの日本語教育をめぐる論文・実践報告などを紹介し、報告、討議を行う。初級用総合教科書を分析し、教科書の特色を把握する。教科書分析の考え方や手法の知識を身に付け、目的に合った分析を行う。	日本人の外国体験の歴史的変遷を講義する。天正少年使節、慶長遣欧使節、「鎖国」時代の漂流民、幕末の遣外使節団、明治の岩倉使節団、海外留学生などがテーマである。
言語学特論 LINGUISTICS 八木橋 宏勇	対照音韻学特論 CONTRASTIVE PHONETICS AND PHONOLOGY 嵐 洋子
本講義は、(広い意味での)言語・コミュニケーションを研究する学生にとって基本中の基本とでも言える言語学の概論的講義を展開していく。ただし、学部で行われるような言語学概論ではなく、履修者の興味関心にとできるだけ即する形で各論を展開し、その論の観点から各自の研究テーマを捉え直す時間も大事にしたい。これにより、各自の研究テーマの裾野を広げ、より大局的観点から論文を執筆できるように配慮した授業を展開する予定である。	本講義では、音声・音韻について、日本語、英語、中国語を中心に対照します。特に本講義(対照音韻学特論)においては、単音(子音・母音)を中心に、各言語の特徴や差異について学びます。さらに応用として、第二言語としての各言語の音声の習得や、音声教育についても議論します。また、以上のために必要な音声学・音韻論の知識及び音響分析の基礎についても同時に学びます。
日本文化特論 JAPANESE CULTURE 鄭 英淑	観光文化論 TOURISM AND CULTURE 小堀 貴亮
<翻訳語を通してみた日本語・日本文化>日本は外国との接触、古くは中国大陸、近世以降は欧米との接触により、多くの文物を受け入れ、日本人の物質生活・精神生活が多大の影響を受けて現在に至っている。この外国との接触によって、当然日本語も外国語の影響を受けて変貌し続けている。特に、幕末・明治維新以後の日本の西洋文化の導入は、数多くの翻訳語・外来語を誕生させ、日本語・日本文化に導入された。そのとき、日本語・日本文化はどのように変容されたかを歴史的に解明していく。同時に資料の収集と分析の方法について説明する。	観光学をベースとして、関連分野の論文の講読を行い、学術用語の使い方、論文構成、研究手法などを確認しながら、学術研究内容を正しく理解できるようにしたうえで、受講者が作成したレジュメに基づき報告・討論する。同時に、自身の研究テーマを確立し、論文作成に向けた準備を進めていく。さらに、観光研究における地域調査に基づくオリジナルデータの収集・分析等、観光学論文の作成に不可欠な知識とスキルを修得する。主な研究内容としては、観光庁が定義する「ニューツーリズム」の範疇における様々な観光文化について、具体的な事例地域や最新トピックを共有しながら、考察していく。テーマとしてはウェルネスツーリズム、ヘルスツーリズム、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘリテイジツーリズム、産業観光など、多種多様な観光事象を対象として、受講者独自の研究テーマの確立を目指していく。

修士論文題目（過去3年間）

- 日本語初級授業の導入場面において出現する学習者の自発的アクトと教師のアクトとの関わり
- 明治初期におけるルビ表記の研究
 - ― 『開巻驚奇・暴夜物語』を中心に ―
- インタビューアーのストラテジー変化
 - ― テレビの対談番組における質問とFTA ―
- 細長い物の数え方について ― 日中対照を中心に ―
- 日本地名の特徴
- 宅配業サービスから見る日中比較文化研究
- 日本の新聞広告における表記の研究 ― 明治、大正時代を中心に ―
- 四字熟語研究 ― 日中両言語の対照を中心に ―
- 中文日訳にみられる言語干渉について
- ペリー遠征における通訳者の役割 ― ウィリアムズを中心に ―
- 中国語指導者の発言の日本語訳についての一考察
 - ― 通訳の視点から ―
- 日本語スピーチを格調の高い中国語スピーチに訳すためのストラテジー ― 安倍首相のスピーチを例に ―
- 「当頭砲」の日本語への訳出についての一考察
- Culture's influence on Vietnamese perception of education and work.
- アメリカ時代の張 愛玲
- 日本語学習者における「じゃないですか」の使用実態について
- 中国新語の訳出における意識と直訳の使い分けに関する一考察
 - ― 通訳する場合を中心に ―
- スポーツにおける通訳の特徴と役割 ― クラブ通訳を例に ―
- 「単位」の訳出に関する調査と分析 ― 日中間の通訳者の立場から
- 政府要人発言の訳出に関する一考察
 - ― 温家宝総理の十年間の記者会見分析 ―
- 唐話纂要の語彙研究 ― 二字話部を中心に ―
- 日中両言語における同形語についての考察
 - ― 『新版中日交流標準日本語中級』の二字漢語を中心に ―
- 定型表現における数詞「三」への考察
- 連体修飾節における「なった」と「なっている」をめぐる考察
 - ― パーフェクトとアスペクトを中心に ―
- 近代外来語の研究 ― 「増補外来語辞典」を中心に ―
- 中国と日本の外来文化の受容と拒絶
- 日中翻訳における語順の調整の役割についての一考察
- 日中通訳における予測について
- 日中翻訳における起点言語の影響
 - ― 日本政府の公式スピーチの中国語訳を例に ―
- 近代中国語における和製漢語の借用について― 梁啓超を中心に ―
 - ― 梁啓超を中心に ―
- 長文の逐次通訳におけるノート・テイキング方法に関する一考察
- 日文中訳における一考察 ― 連体修飾節を中心に ―
- 中、日都市部における老人ホームに関する研究
 - ― 広西省と東京八王子市の事例を参考して ―
- 「紅樓夢」日本語訳の相違点 ― 四字熟語を例に ―
- オノマトペの使用状況の考察と分析
 - ― 現代日本語書き言葉をを中心に ―
- 日本語と中国語の定型句における動物の意味対照
 - ― 比喩表現から ―
- 変訳の中日通訳における応用
- ウェブニュースの中国語への訳出における難点と対策に関する一考察
- 上海市の高齢者施設の立地問題及び政府機能転換に関する一考察
- 形容動詞語彙の変遷と現状 ― 語尾「-なる」と「-な」 ―
- 「させていただく」文型から見た動詞の意味分類
- 夏目漱石の小説における顔の描写の表現特性
- 「手」の造語要素としての意味的考察

- 談話における無助詞 ― 映画の中の会話を資料として ―
- 日本首相の演説・記者会見などの中訳における問題点及び誤訳に関する一考察
- 注意書きに関する研究 ― 日本と中国 ―
- 地名の表記体系の問題
- 軽重を表す形容詞「重い」についての意味的考察
- 「故事俗信ことわざ大辞典」に見る日本語の色彩研究 ― 白、赤、黒、青を例に ―
- 中国の大気汚染問題と防止対策についての研究
- 中国敬老院の現状と課題 ― 安徽省五河県における事例研究 ―
- 接尾辞「-人」の語形と語基との関係
- 中国の人口政策と出産率のギャップから見る女性の意識変化
- 国際文化交流 邵 驍 類義オノマトペの使い分けに関する考察 ― 「あっさり」「さっぱり」を例として ―
- 日中字幕翻訳の質に関する研究 ― 映画「ビリギャル」を題材に ―
- A Case Study of Cooperative Learning Techniques As Experienced by Exchange Students at a Japanese University
- ポライトネスのストラテジーを反映した翻訳手法に対する分析 ― 小説「火花」を題材に ―
- 広州市における医療通訳の現状に関する調査・考察



論文指導

荒川 みどり ARAKAWA Midori

研究・指導分野 外国語としての日本語教授法、とくに文法、作文、読解の指導法。

Message 日本語の文法やことばの意味、ことばの使われ方に関する知識を日本語教育とどう結びつけるかを考えます。また、学習者の誤用の観察などを通して、日本語の特徴や、教え方や教材を考えるきっかけとします。技術的な面では、論文の文体、書式を学び、文献資料の読解と要約、レジュメ作成の練習なども行います。

Keyword 日本語教育・教授法・文法・作文・読解・誤用

嵐 洋子 ARASHI Yoko

研究・指導分野 実験音声学的手法を用いた日本語音声の研究及び日本語教育における音声指導に関する研究を主たる研究分野としています。

Message 日本語音声の諸問題を中心に論文作成指導を行います。日本語学習者の音声に関する研究、外国語と日本語の音声の対照研究、日本語学習者への音声指導や聴解・会話の指導に関する研究も含まれます。調査の計画、実施から分析方法等、調査系論文について詳しく学びます。

Keyword 日本語音声学、実験音声学、音声教育、聴解指導、会話指導、方言

板垣 友子 ITAGAKI Tomoko

研究・指導分野 中日翻訳・翻訳論、教材研究、中国語教育史

Message 実務翻訳をはじめとするさまざまな翻訳分野における、中日翻訳における諸問題について研究を行います。特に機能主義など理論からの分析を通して、翻訳とは何か、より良い翻訳とは何かを一緒に考察していきます。

Keyword 中日翻訳、機能主義、実務翻訳

河路 由佳 KAWAJI Yuka

研究・指導分野 日本語教育や日本語学習の歴史研究、日本語教育者・学習者研究、日本語文学、日本語の教育や文学に関する日本語・日本文化研究。

Message 日本語をめぐる教育や文学、文化にかかわる領域で、受講生が本気で調べたいこと、探したいことを大切に育てていきたいと思っています。じっくりあたためたテーマを持って参加してください。

Keyword 日本語、日本語教育、教育者・学習者、日本語文学、日本文化

坂本 ロビン SAKAMOTO Robin

研究・指導分野 異文化コミュニケーション、比較・国際教育、英語教育学

Message Communication research today needs to examine more deeply the role of culture and how it affects communication between others as our world becomes more interdependent. This can only be accomplished by both a firm understanding of not only one's own culture but also other cultures. As these communication patterns are learned in part through education systems it is also necessary to expand communication research to include comparative and international education.

Keyword 異文化コミュニケーション、比較・国際教育、英語教育学

西山 桂子 NISHIYAMA Keiko

研究・指導分野 観光産業、とくにホテル経営とフードビジネスを研究しています。

Message 観光産業では多様な業態も登場し、グローバル展開が急速に進んでいます。この産業の面白さと経営の難しさを学び、課題解決の一助となるような研究を進めます。

Keyword 観光産業、ホスピタリティマネジメント、ホテル経営、フードビジネス

宮首 弘子(張 弘) MIYAKUBI Hiroko

研究・指導分野 日中通訳論・翻訳論 医療通訳 中国語新語・流行語

Message 日中通訳・翻訳の諸問題に関わる研究を行います。様々な通訳・翻訳の現場あるいは通訳・翻訳訓練のプロセスにおいて感じた問題点を、通訳・翻訳学の理論と実践からアプローチし、解決策と一緒に模索・探求しましょう。

Keyword 会議通訳、医療通訳、翻訳、新語・流行語

鄭 英淑 CHUNG Young-Sook

研究・指導分野 幕末から明治期にかけて作られた近代訳語と外来語を研究分野にしています。西洋文化の受容によって登場した訳語と外来語の研究を通して日本語の語彙の特質を究明する。

Message 東洋文化・西洋文化との接触による日本語の語彙の変化を中心に論文指導を行います。異文化との接触によって作られた訳語・外来語研究に必要な文献資料の収集と理解、分析方法の習得を目指します。

Keyword 異文化、近代訳語、和製漢語、外来語

修了生からのメッセージ



遠藤 弘司さん

2018年3月
国際協力研究科開発問題専攻修了

国際協力研究科開発問題専攻（博士後期課程）を修了して

私は、2018年3月に国際協力研究科博士後期課程を修了しました。

博士論文研究で2015年ネパール地震後のリハビリテーションに関する現地調査を行ったこともあり、帰国後はJICAの国際緊急援助隊に登録して定期的な訓練を受け、海外における大規模災害時の派遣要請に備えています。

また、在学中より多くの医療・保健の世界各国の専門家の方々と交流することができました。それらより、現在は、中国の地域基幹病院におけるリハビリテーション技術指導、海外介護士向け訪日セミナーにおける基礎医学や老年リハビリテーションの講義、介護分野における外国人技能実習生事業運営等の国際事業に携わっています。

学術交流としては、ロードアイランド大学（アメリカ）の理学療法博士課程の大学院生の杏林大学保健学部訪日プログラムのサポートや、実際にその大学院を現地訪問してゲストスピーカーとしてコミュニケーションクラスへ参加する機会を得ることができました。

このように、大学院を通じて得た経験やネットワークにより、現在も様々な国際協力に携わることができています。



及川 勉さん

2018年9月
国際協力研究科国際文化交流専攻修了

玉村ゼミナール修了生の及川勉と申します。昨年9月に修士課程を修了し、都内の短期大学で日本語の非常勤講師をしています。

私は初めから日本語教師を志していたわけではなく、また大学院生時代に受講した科目の全てが日本語教育関連のものだったわけでもありません。ただ、受講した科目のほとんどが日本語に関する授業であったということが重要でした。また、杏林大学大学院（特に国際協力研究科）には多くの留学生がいるのですが、彼らに出会えたことも重要でした。授業では日本語の研究と教育について学び、授業外では留学生から彼ら自身の言葉遣いが正しいかどうかの判定を求められたり、作成資料の修正を依頼されたりしましたが、その中で日本語教育に関心を抱くようになりました。そして短期大学の講師のお話をいただいて教壇に立ち始めてからは、この環境が非常に得難いものであることを痛感しました。杏林大学大学院にはゼミナールや授業に限らず、あらゆる場面で指導やアドバイスを下さる先生方が大勢おられ、さらに自身の学習に基づいて助言をくれる留学生も多くいるのでありがたく思いました。

まだまだ力及ばないところもありますが、短期大学で日本語を毎日楽しく教えています。



柿沼 澄枝さん
（旧姓：櫻井）

2017年3月
国際協力研究科国際医療協力専攻修了

＜大学院での研究と現在の仕事の関わりについて＞

私は診療放射線技師として、病院やクリニックで勤務をして今年で15年目になります。大学院に進学しようと思ったきっかけは、幅広い視野を持ち、今後の業務に活かしたいと考えたからです。社会人になって10年を過ぎた頃から、自身の専門分野の知識・技術の向上はできているが、それ以外の分野は無知であり、狭い世界に留まっているのではないかと感じるようになりました。そこで、興味のある国際協力、その中でも自身の職業に関連した国際医療協力専攻に進学し、研究することを決めました。

2017年3月に修士課程を修了し、現在の病院に就職しました。勤務先は海外に事業展開をしており、カンボジアの首都プノンペンに関連病院があります。＜日本の医療を海外へ輸出＞というコンセプトで開院し2年が過ぎました。私は日本人スタッフとして、現地の病院で約半年間勤務をしました。業務内容はカンボジア人への臨床教育、部署ごとの管理業務などです。後発スタッフとして派遣された私のミッションは、＜カンボジア人のみで現場を回す＞ことでした。言葉・文化・習慣の異なるカンボジア人に日本式の医療を伝えることは容易ではありませんでした。しかし、毎日現地スタッフと一緒に仕事をする中で、彼らの興味を引き出し、長い時間をかけて信頼関係を築いた結果、任期を終える頃には私が所属する放射線科は現地スタッフのみで業務をこなせるようになりました。日本に帰任後の現在は、グループ施設のクリニックで技師業務を行いながら、放射線科の立場からクリニックの収支関連業務も行い、より良い医療を患者様へ提供できるよう日々奮闘しています。

大学院での学び・研究は、カンボジア赴任中から現在、そしてこれからも関連していくと実感し、大切にしていきたい私の財産です。修士1年次に受講した興味深い授業、2年次にタイ・コンケンで行ったフィールド調査は、当初の目標であった自身の視野を広げる大きなきっかけとなりました。また、国を超えて仲間と一緒に仕事をする喜びや楽しさに出会うこともできました。

社会人になって大学院に通うことは決して簡単なことではありませんが、同じ目標を持った研究室の仲間や、お世話になった指導教授との繋がりは大学院修了後も続き、貴重な出会いを得ることもできます。もし少しでも大学院に興味があり迷っているなら、是非一度研究室を訪問してみてください。



張 晶さん

2018年3月
国際協力研究科開発問題専攻修了

皆さん、こんにちは。杏林大学国際協力研究科から博士後期課程卒業の張晶と申します。現在は北京大学のポスドクターであり、日本語学科の学生に日本語を教えながら、引き続き通訳翻訳の研究に精進しております。

2014年、私は通訳者としての力を磨き、博士学位の取得を目標に抱え、未知の土地に足を踏み入れました。日本に行く前は少し不安もあったものの、いざ行ったら、緑溢れるキャンパスに心が癒され、また教務課や、指導教員の方々に励ましの言葉をかけられ、おかげで不安は一気に解消しました。杏林大学って皆優しいなぁと感じました。

在籍の3年間半、通訳翻訳の実技訓練も研究の指導も厳しいものでした。しかし、厳しいからこそ、自分の成長も実感できるほど速かったのです。今、私は本業以外にも、様々な国際会議やセミナーで通訳をしており、当初の緊張しやすい自分から脱皮することができました。杏林大学での経験は私にとって非常に貴重な宝物であり、今後もここで学んだことを自分の学生に教えていきたいと思っています。



片山 奈緒美さん

2017年3月
国際協力研究科国際文化交流専攻修了

某所の420時間日本語教師養成講座を受講中にお世話になった先生に勧められ、大学院を受験しました。このごろは社会人大学院生は珍しくありませんけれど、わたしが修士課程に入学したのは40代後半です。いくらなんでも遅いスタートだろうと覚悟しつつ臨んだのですが、大学院は社会人経験を大いに生かせる研究の場だと感じました。

修士課程在学中は指導教官の御指導のもと、わたしよりさらに年上のゼミ生や若い留学生と議論し、濃密な2年間を過ごすことができました。おかげでさらに追究したい研究テーマが見つかり、いまは博士論文執筆に挑戦中です。毎月のように学会発表や学会誌への論文投稿の締め切りがあり、仕事を続けながらそれらをこなしていくのはたいへんですが、充実した日々を送っています。

若い人には若い感性を生かしてもっと大学院で研究してもらいたいです。でも、経験を積んだ社会人は学部を終えたばかりの若い院生とは違う視点で研究できると思います。



馬 松 磊さん

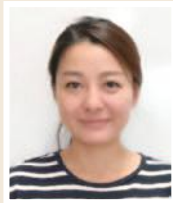
2010年3月
国際協力研究科開発問題専攻修了

杏林大学での生活は、まだまだ深く印象に残っています。杏林大学では経営と貿易関連知識を勉強していましたが、仕事で役立てることができています。

中国に帰ってからは、オフラインのヤマダ電機・オンラインの京東商城という会社にバイヤとして勤めました。沢山の外国商品を中国に輸入していましたが、日本製品は中国市場で特に売れたようです。

今は、単身赴任で杭州の浙江物産という国営企業で働いています。沢山の日系企業とやり取りして、良い日本製品を中国に輸入し、良い中国製の商品を日本に輸出しております。一生このような仕事していこうと思って、とても頑張っております。年に4回ぐらい、日本に出張していますが、たまに、日本の方から、なぜ日本語ができるのか聞かれることがあります。そのとき私は、二年間ぐらい日本の杏林大学に留学したことがありますと返事しております。杏林大学出身であることは、私の誇りです。

杏林での生活と学習は永遠に忘れないと思います。心より感謝しております。



陳 甘露さん

2016年3月
国際協力研究科国際医療協力専攻修了

杏林大学大学院の国際医療協力研修科に入学中は、先生方のもとで収穫が多い充実した日々を過ごすことができました。

現在はその知識を活かして、神奈川県にある海外事業を展開している医療法人で働いています。主に中国における高齢者養老介護事業及びリハビリテーション関連事業に関わっており、最近話題にもなっている介護技能実習生事業にも携わっています。中国では、急速に高齢化が進む中、介護サービスの知識が乏しく、介護保険制度が整っていないために様々な問題が発生しています。これらの問題を解決するため、日本と中国の架け橋になれることを目指しています。

中国では「一日为师，終身為父」ということわざがあります。教えて頂いたことや恩を一生大事にするという意味です。指導教授である先生を始めとする他の先生方に教えて頂いた知識及び物事を見る視点を活かし、更なるグローバル社会に貢献できるように努めていきたいと考えています。



王 倩さん

2018年3月
国際協力研究科開発問題専攻修了

2018年3月に博士後期課程を修了し、今現在は、中国上海外国語大学で教鞭をとっております。日本語MTI専攻の学生たちを対象に日中通訳を教えています。私にとって杏林大学国際協力開発科で学んだ四年間はかけがえのない時間だったとつくづく実感しております。

特に、塚本慶一先生・尋先生から教わった日中通訳に関する知識は現在の仕事に非常に役立っています。まさに先生からいただいたバトンを私を経由して日中交流事業を担う次世代に渡していく感じです。

先生方の言葉を心に銘記しながら、これからも教師として頑張っていく所存です。



董 海 濤さん

2019年3月
国際協力研究科開発問題専攻修了

湖南大学卒業後、4年間の企業勤務を経て、北京大学の修士課程に進学し、井の頭キャンパス開設の2016年4月に国費留学生として国際協力研究科博士課程に入学しました。学部の時、同時通訳の授業で塚本慶一先生の教材を使ったことをきっかけに杏林大学に興味を持つようになりました。入学後、改めて通訳実務と通訳研究の違いを実感し、研究に苦戦する日々を送りました。題目選定から論文執筆まで、先生方から暖かいご指導をいただき、無事予定通りに提出することができました。そして、先輩方や後輩とともに過ごしてきた日々は人生の宝物です。現在は北京外国語大学から教員の内定をもらい、帰国後、所定の手続きを無事済ませることができれば、教壇に立つことができます。駆け出しの研究者としてまだまだ未熟な点が多いですが、杏林で学んだことを生かして少しずつでも成長できるように精進していく所存です。

開発問題専攻

Major in Development Studies (Doctoral program)

本専攻の 理念・目的

開発問題専攻は、国際協力の実践場面で、あるいはその研究分野で、各専門領域の知識と技能を修めた高度な専門家として活躍できる、有用な人材の養成を目的としています。

本専攻の 教育方針と 概要

国際協力研究科博士後期課程開発問題専攻は、博士前期課程（修士課程）の国際開発専攻、国際文化交流専攻、国際医療協力専攻、国際言語コミュニケーション専攻を統合して設置された、より高度な専門的な知識の修得と研究の場です。途上国の経済社会の発展に貢献できるよう、多様な科目が設置され、少数精鋭主義に基づく指導を実施しています。医学部や保健学部を擁する杏林大学ならではの科目も設置され、学際的研究が可能な態勢となっています。開発問題専攻では、特定分野、特定テーマの専門家として現場で信頼される実践的リーダーの育成と国際協力を科学の視点から検証・評価し体系化してゆく研究者の養成とを目指しています。いずれの道においても、幅広く情報を求め、それらを正しく評価して整理、統合し、科学的、論理的、客観的に組み上げて結論を得る。これらの過程を踏まえて、新しく独創的な知見を得ることが、博士号取得の条件といえます。

指導教授の指導のもとで研究計画をしっかりと立て、研究テーマに挑戦し、博士（学術）の学位を取得されることを望みます。

授業科目概要

国際経営学演習 I・II・III SEMINAR ON INTERNATIONAL MANAGEMENT I・II・III	田中 信弘	国際経営論演習 I・II・III INAR ON INTERNATIONAL MANEGIMENT THEORY I・II・III	糟谷 崇
本講義では国際経営学に経営学についての総合的理解を目指し、学生諸君と相談の上、研究テーマをきめていき、それに即した論文指導を行う。		経営情報論の適応範囲を体系的に理解し、企業における情報システムの導入事例をもとに今後の情報システムの展開について検討する。そのために現在の情報化社会を支える情報システムおよび情報技術の役割と仕組みの概要を理解すると共に、今後の企業経営にどのような影響を与えるかについて考察する。近年、注目されている様々な情報通信技術をもとに、情報化社会の将来と企業が果たすべき役割について検討する。そのために、21世紀以降に登場した新しい情報通信技術の概念や機能を理解すると共に、今後の企業経営にどのような影響を与えるかについて考察する。	
日本経済論演習 I・II・III SEMINAR ON JAPANESE ECONOMY I・II・III	大川 昌利		
日本経済の多様な側面においてIT関連の技術革新が応用され、今後それらが実用に供されるようになった場合、経済成長にも資する可能性が指摘されているが、そうした技術革新が最も進展する可能性を指摘されているのが金融の分野である。そうした金融分野のIT技術の応用と政策的対応につき探求するハイレベルの演習である。			
国際経済学演習 I・II・III SEMINAR ON INTERNATIONAL ECONOMICS I・II・III	西 孝	比較法制論演習 I・II・III SEMINAR ON COMPARISON OF LAWS I・II・III	松田 和晃
本講義では、最新かつ重要な世界経済の諸問題を考察する。この時間の演習では、グローバリゼーションとそれがもたらすものについてさまざまな角度からこれを検討する。授業の進め方は、受講生による報告（テキストの要約）と教員のコメント・補足説明、全員による質疑応答・討論といった形式をとる。		論文指導を通じて、日本の法制度および政治権力の構造や実態について、文献史料を中心とした史的分析の作法を訓練する。	
		会计学演習 I・II・III SEMINAR ON ACCOUNTING I・II・III	内藤 高雄
		本演習ではIFRSのさまざまな側面についての検討を行い、その後の展開については受講生の希望を斟酌して決めることとする。最終的には博士論文またはその中間報告、および研究論文の指導をしていくことになる。	

研究分野

政治経済・法制

- 国際経営学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際経営論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 日本経済論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際経済学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 会計学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 比較法制論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 民事法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 刑事法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 政治学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際政治学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 金融論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際法論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

〔2単位科目〕 ● 国際法論 ● 国際経済論 ● 国際政治論

地域研究・開発協力

- 国際貿易論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際協力論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 現代中国政治論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 人類生態学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 環境問題演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 社会福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 医療経済学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 日本語学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際言語コミュニケーション(英語分野)演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 国際言語コミュニケーション(中国語通訳分野)演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

〔2単位科目〕 ● 国際保健医療学特論 ● 日本言語文化論 ● 比較社会文化論
● コミュニケーション論 ● 応用言語学 ● 言語教育論

民事法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON CIVIL LAWⅠ・Ⅱ・Ⅲ	藤原 究	刑事法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON CRIMINAL LAWⅠ・Ⅱ・Ⅲ	大山 徹
法律問題のうち、民法(財産法)について指導を行う。履修者の学位論文に即した問題を具体的に解明していきたい。		この講義では、刑法総論における解釈学上の基本的な論点を取り扱う。伝統的な刑法学においては、犯罪とは、構成要件に該当し違法で有責な行為をいうが、犯罪論体系の有する意味につき初学者にわかりやすく講義をすることを心がけるため、安心して受講されたい。行為論、構成要件論、違法論、責任論、未遂論、共犯論の順番でレクチャーしていくことにするが、できる限り抽象的な話に終始しないよう具体例をあげながら丁寧に講義を行うよう心がける。	
政治学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON POLITICAL SCIENCEⅠ・Ⅱ・Ⅲ	進邦 徹夫		
政治学・行政学に関する論文指導を行う。各自の研究報告を行うとともに、研究手法や論文執筆の技法について学ぶ。			
国際貿易論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON INTERNATIONAL TRADEⅠ・Ⅱ・Ⅲ	小野田 欣也	国際政治学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON INTERNATIONAL POLITICSⅠ・Ⅱ・Ⅲ	渡辺 剛
国際貿易の諸問題を研究対象とする。受講者の具体的な研究テーマに即して、重要かつ最新の内外文献の講読と論文指導をおこなう。		政治学領域の観点からの現代中国・台湾政治論及び社会論、東アジア比較政治体制論、東アジアの国際関係と安全保障に関連した博士論文執筆の指導を行う。論文のテーマ設定、プロット構築、資料・文献収集、分析手法、草稿のチェック等が対象となる。その為には、細かな段階毎にレジメを作成し報告を行っていただく。その報告に対する批評と助言をフィードバックさせて論文完成を目指す。	
金融論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON MONETARY AND FINANCIAL ECONOMICSⅠ・Ⅱ・Ⅲ	小田 信之		
本演習の前半では、マクロ金融論の重要分野を輪講形式で学習する。本演習の後半では、各受講者が作成している論文の経過報告と討論を行いつつ、分析を深化させるための指導を行う。			
現代中国政治論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON CONTEMPORARY CHINESE POLITICSⅠ・Ⅱ・Ⅲ	劉 迪	国際協力論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON INTERNATIONAL COOPERATIONⅠ・Ⅱ・Ⅲ	知原 信良
中国政治問題の研究手法、論文の作成方法を指導する。指定教科書を読み、それに基づいて討論、発表する。学生の研究テーマに応じて、先行研究、研究意義、文献収集等を併せて教授する。		本演習では、国際協力の現状と課題について考察する。今年度春学期は、「日本の政府開発援助(ODA)のあり方」と題して、日本のODA問題を取り上げる。授業の進め方は、受講生による報告(テキストの要約・各自の調査結果)と教員のコメント・補足説明、全員による質疑応答・討論といった形式をとる。	
環境問題演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON ENVIRONMENTAL PROBLEMS AND POLICIESⅠ・Ⅱ・Ⅲ	斉藤 崇	人類生態学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON HUMAN ECOLOGYⅠ・Ⅱ・Ⅲ	出嶋 靖志
この授業では、受講生の関心のあるテーマについて、専門論文を読むとともに研究指導をおこなっていく。取り扱う分野は、環境問題、環境政策に関連するものである。文献輪読や研究報告、それらをもとにした議論を通じて、専門論文の読み方・書き方等について学び、各自の論文作成につなげていってもらふ。なお半期の授業で少なくとも3本以上の主要文献を深く読み込むとともに、関連する文献資料についても適宜取り上げていく。		本演習は、博士前期(修士)課程の人類生態学特論を発展させた内容である。授業では、健康、疾病、エコロジー、汚染、観光、国際保健といった、この分野の基礎について、日本語と英語の教科書的文献を読み、討論する。次に、博士論文の研究テーマについて検討する。	
医療経済学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON HEALTH ECONOMICSⅠ・Ⅱ・Ⅲ	北島 勉	社会福祉学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON SOCIAL WELFARE RESEARCHⅠ・Ⅱ・Ⅲ	岡村 裕
本講義では、発展途上国の健康問題を経済学的な視点から学習する。医療経済学は様々なテーマを研究対象としているが、その中でも経済成長と健康の関連、市場経済と医療の関係、保健医療サービスの提供や利用にかかる費用、様々な医療費の負担方法について取り上げる。		保健、医療、福祉領域における調査研究方法の種類および概要についてまず学ぶ。様々な領域に共通の調査研究の基礎を理解した上で、受講生はそれぞれのテーマに関する文献やデータをまとめて報告する。その結果について議論しながら博士論文の作成に結びつける。	
国際法論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON INTERNATIONAL LAWⅠ・Ⅱ・Ⅲ	川村 真理	日本語学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON JAPANESE LANGUAGEⅠ・Ⅱ・Ⅲ	河路 由佳
国際法、国際機構の諸問題について指導を行う。履修者の研究内容に即したテーマを取り上げ、文献購読、研究報告および討論を通じて分析の深化を図るとともに、論文指導を行っていく。		日本語の語彙・意味、文字・表記、日本語の教育及び日本語と社会の関係等、日本語をめぐる研究に関する論文の指導を行う。大学院生は各自の予定する研究内容について発表し、研究方法について学び、各自の研究成果を得る。	

国際言語コミュニケーション（英語分野） 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON ENGLISH COMMUNICATIONⅠ・Ⅱ・Ⅲ		坂本 ロビン	国際言語コミュニケーション（中国語通訳分野） 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ SEMINAR ON CHINESE INTERPRETATIONⅠ・Ⅱ・Ⅲ		宮首 弘子
The main language of this course will be English. Students will be expected to participate actively in English discussion and to report findings of communication research in their own native languages in English.			本演習は、言語コミュニケーション、とりわけ、通訳・翻訳の観点から、それぞれの領域において、理論と実践の両面より具体的に課題研究を行い、実務経験を積ませ、併せて、個別指導を進める。そして、発表と討論を経て、最終的には、博士論文として完成させる。		

2単位科目					
-------	--	--	--	--	--

国際法論 SEMINAR ON INTERNATIONAL ECONOMICS		川村 真理	国際政治論 SEMINAR ON INTERNATIONAL POLITICS		劉 迪
具体的事例に基づいて国際法構造の基本について理解を深める。授業は演習形式で、毎回報告者がレジュメを作成して報告し重要な論点を整理して議論を行う。			本講義では、4人の中国観察者の目線を通じて複眼的に中国をアプローチする。初回は、入門講義を行うが、2回目以降、学生が逐次に報告し、議論する。		
国際経済論 SEMINAR ON INTERNATIONAL LAW		小野田 欣也	国際保健医療学特論 INTERNATIONAL HEALTHCARE		出嶋 靖志
国際貿易構造変化、国際貿易体制、為替レート変化、国際金融体制など、国際経済問題の理解のためには国際貿易・国際金融理論の知識が不可欠である。理論的背景の無い政策的見解は雑談の域にすら達しない。本授業では国際貿易理論の習得を目的として、内外文献の輪読と検討、討議をおこなう。			人間は地球上の様々な地域で、様々な気候、風土の中に暮らしている。自然環境が異なると、手に入る食物も異なり、地域に特有の食文化や社会システムが生まれる。トウモロコシと豆類で生涯を送る人々もいれば世界中から食材を集めて飽食に耽る人々もいる。環境への適応と食べ物の違いは、健康状態にどのような影響を及ぼすのだろうか。観光は、日常生活の場（環境）を変化させて楽しむ行動と言える。環境の変化は、観光を行う者の健康に大きく影響する。一方、観光開発による大規模な環境の変化も生じている。このような、観光に伴う様々な環境の変化によって健康を損なわない方法を知ることや、逆に、観光を利用した健康増進を考えることは、従来、文系の諸分野のみで考察されてきた観光分野にとって未来の新たな重要テーマである。授業の前半は環境と健康との関係について、後半は観光に伴う環境の変化および栄養環境の健康影響について、様々な地域の人々の暮らしを紹介しながら講義する。最後に、課題を決めて調査研究を行い、発表をしてもらう。		
比較社会文化論 COMPARATIVE STUDY OF SOCIETIES AND CULTURES		千野 万里子			
人は言葉を用いて考え、表現し、意思の疎通をはかる。言葉は人にとってなくてはならないものである。人が作り上げた社会や文化はこれまで発展し続けてきた。言葉も社会や文化の影響を受けて常に発展変化してきている。当然、言葉にはその言葉を使う人たちの社会や文化が色濃く反映されている。本講座では、中国語と日本語それぞれの言語の背後にある社会や文化の特徴を探りながら比較することを目的とする。					
日本言語文化論 JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE		河路 由佳	コミュニケーション論 COMMUNICATION STUDIES		倉林 秀男
音節数の少ない日本語には、古来「かけこぼし」ほか、特有の文学的技巧があり、それらの中には、外国語への翻訳が困難なものがふくまれる。その一方で、翻訳可能な技巧も存在する。この授業では、レトリックをテーマとして、文献を読みながら、日本語の種々のテキストの中に現れる文学的表現について考察する。			社会空間の中の我々のインタラクションを様々な観点から研究するコミュニケーション論は、学際的な研究領域でありその守備は限りなく無限である。そのため、この授業のテーマを「ことばは世界とどうかかわるか」というものとし、語用論的な観点からコミュニケーションについて考えてみたい。		
応用言語学 APPLIED LINGUISTICS		八木橋 宏勇	言語教育論 LANGUAGE EDUCATION		岩本 和良
本講義では、履修者の研究テーマに配慮しつつ、認知言語学 (Cognitive Linguistics) や社会言語学 (Sociolinguistics) の主要なテーマを概観し、授業内で議論を深める。このディスカッションは、各自の研究テーマに新たな論点を見いだすきっかけとなるはずであり、また論文の内容をより深化させる手立てともなるはずである。			言語教育に関わる領域は多岐にわたる。第二言語教育でも外国語教育でも、検討すべきことはほぼ同じである。本講義では、言語教育を全体として考えなければならないカリキュラムデザインについて学習する。ニーズ分析、目標・目的設定、試験作成、教材選定・開発、指導について学び、最終的には自分が考えるカリキュラムを作成する。		



博士論文題目(過去3年間)

- 中国語教育における通訳技術訓練の導入研究 ― 日本語母語話者の中国語学習初期におけるクイックレスポンス導入の効果 ―
- 通訳の訳出精度に影響を及ぼすSL要因 ― 中国語から日本語への訳出の場合 ―
- 異文化コミュニケーションの視点から見る通訳の障壁について ― 日中通訳を例に ―
- リスク回避の視点から見る中日同時通訳における話速と訳出率の相関関係
- 2015年ネパール地震後のリハビリテーション医療ニーズに関する研究
- Research on the Teaching Efficiency of College English
- コーパスを利用した逐次通訳と同時通訳の訳出率に関する比較研究 ― 日本語から中国語への訳出を中心に ―
- 通訳者養成における大学院の社会的認知度と評価向上促進のための課題に関する研究
- 日中同時通訳プロセスにおける同形語転移の判断 ― 放送時差同時通訳実例においての研究 ―

データベース紹介

杏林大学大学院には、高度な研究を行う上で必要なデータベースが数多く導入されており、信頼できるデータ、エビデンスになりうる資料を容易に入手することができます。大学院生は学内外いつでも利用可能です。

Early English Books Online (EEBO) は、1475年から1700年の間に英国で出版された書籍をデジタル化して提供する、初期英語書籍集成データベースです。英文学だけでなく、哲学、宗教、歴史、政治、法律、経済、社会、科学、軍事学、芸術、言語学など、様々なジャンルの貴重な文献が収録されているため、空間的・時間的な制約を受けずに、多彩で専門的な文献資料を出版当時そのままのイメージで閲覧することができます。

Early English Books Online

15～17世紀イギリスの出版物に見る外国

Early English Books Online(EEBO)は、1700年までにイギリスで刊行された印刷行物を網羅的に収録するデータベースです。イギリスのみならず、同時代の欧州諸国の政情や文化、急速な地理上の進出に伴って欧州にもたらされたアメリカ大陸やアジアに関する出版物も豊富に収録しています。

収録例

- ・(左)1684年刊行の日本地図。底本はフランス語で刊行されたタヴェルニエ『六つの旅』(1676)。外国の刊行物も、評判の良いものは英訳されてイギリス国内に多数流通した。
- ・(中)航海術の解説書(1688)、(右)世界地図(1625)

小学館コーパスネットワークの基本検索機能

検索結果はすべてダウンロードできます

語句検索

ある単語(漢字)も含められ、その単語を使った例文をコーパスから検索して表示します。さらに、その例文の原文表示を行うことができます。漢字検索、フリガナ検索、ローマ字検索が可能です。

その語(句)がよく使われるのか、正しい言い方なのか、どんな言い方なのかを調べます。

チェックを入れると漢字もローマ字も表示されます。さらに、その例文の原文表示を行うことができます。

検索結果は、単語、フレーズの用件検索で表示されます。

コロケーション検索

ある単語がどんな名詞や動詞、形容詞、副詞、前置詞などと組み合わされて使われるかを、頻度順位などの統計数値に一覧表示します。たとえば、下のように入力すると、この単語にどんな名詞が付きやすいかを調べることができます。単語の使われ方の実態がわかり、英文、漢文も表示できます。

検索したい単語の品詞を指定する。場合によっては品詞コードを指定します。

検索する単語の品詞を指定する。場合によっては品詞コードを指定します。

中心語より前方から後ろにかけて検索を行います。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

品詞指定検索

品詞が2つ以上ある語は、調べたい品詞を指定し、検索。漢字形などとも組み合わせて、例文として表示されます。

品詞指定: コーパス検索: BNC クリア

検索条件: 品詞指定: 品詞指定: 品詞指定

検索結果: 品詞指定: 品詞指定: 品詞指定

クラスター検索

単語が2つ以上ある語は、調べたい品詞を指定し、検索。漢字形などとも組み合わせて、例文として表示されます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

ジャンル別検索

読書や書き言葉、新聞、小説、芸術、社会科学などのジャンル、さらに医学、化学、物理、コンピュータ工学などのジャンルを選んで検索することができます。分野別の使われ方比較もできます。

ジャンル別検索: 読書や書き言葉、新聞、小説、芸術、社会科学などのジャンル、さらに医学、化学、物理、コンピュータ工学などのジャンルを選んで検索することができます。分野別の使われ方比較もできます。

わかりやすいグラフ表示

検索した単語や品詞が、どのジャンルにどんな頻度で使われているかを、棒グラフと円グラフで視覚的に示します。単語や品詞の使用分野の特性などを見ることができます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

検索結果のランキング表示方法を指定できます。

言語研究には、いまやコーパスは必須のツールとなっています。杏林大学の大学院生は、いつでも、どこからでも「小学館コーパスネットワーク」にアクセスでき、世界最大級の英語コーパス「BNC Online」や「WordbanksOnline」を自由に使って研究することができます。また、日本人中高生1万人の英作文データを収録した「JEFLL Corpus」を使えば、英語教育や第二言語習得研究の貴重なデータを得ることができます。

○「小学館コーパスネットワーク」を使って実証的に書かれた論文

八木橋宏勇 (2019) 「母語話者の内省とコーパスデータで乖離する容認度判断—the reason... is because... パターンが妥当と判断されるとき」『認知言語学を紡ぐ』くろしお出版. pp. 71-89.

いま、世界が求めるものに向けて



井の頭キャンパス

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀5-4-1
TEL : 0422-47-8000 FAX : 0422-47-8054



杏林大学大学院国際協力研究科

Graduate School of International Cooperation Studies

<http://www.kyorin-u.ac.jp/> E-mail: kenkyuc@ks.kyorin-u.ac.jp